

# 中日会報

公益社団法人 中日日本書道会  
 編集事務局 名古屋市  
 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19  
 桑山ビル8階C号 室番  
 電話 (583) 19000  
 F A X (583) 1910番  
<http://www.cn-sho.or.jp>  
[info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)  
 印刷 株式会社 荒川印刷

## 名誉会長あいさつ

### — 祝賀懇談会祝辞より —

名誉会長 海部俊樹



会員のみなさん、本日は誠にありがとうございます。中日書道展のご入賞、ご入選、また樽本樹郎先生には東海テレビ文化賞ご受賞、安藤滴水先生には愛知県教育文化功労者表彰ご受章、心からお慶び申し上げます。日頃のご努力、ご研鑽の結果であると思います。また、本日ここに臨席いただきましたご来賓の方々にも篤くお礼を申し上げます。ほんとうに有難うございます。

昨年の六月から、関根玉振理事長のもと新体制で行事がスタートしています。フレッシュな役員のみなさんが関根理事長を支え、もり立てて書道展を始めとして様々な行事に取り組んでいただいていることと思います。ますます充実したものになるよう期待しております。

さて、私ごとではございますが、満八十七歳になりました。本日は、昨年と同様に八十八歳のご長寿のお祝いのかたも元気にご出席いただいていると伺っています。ま



樽本樹郎名誉会長代行による  
会長祝辞代読

まだまだ私も負けてはいられない、政界をしつかりと見ていかななくては、と思っております。

さて、日本の書道は、世界に誇るべき文化であります。書道のみなさんは一生懸命学んでおられます。そして、そのことに加えて、日本の書道文化を、後世にまで伝え、発展させることも、また大切なことであります。そのために「世界無形文化遺産」の登録をめざしてユネスコへの働きかけを進めております。皆様方には、是非ともご理解とお力添えをいただきたくお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。

盛夏の候、会員の皆様には、恙無くご活躍のことと拝察致します。

先日、第六十八回中日書道展、そして併催されました「愛知県・江蘇省友好書道展」に於きましては、皆様方のお陰で、無事終了することが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。

本年度は、都合により通常と異なる展覧会場となり戸惑いも有りましたが、諸先輩並びに役員、会員、協賛会員の皆様が一一致団結して運営・事業推進を行った結果、無事に終了出来ましたこと、心より感謝申し上げます。長年に亘り育まれた、叡智と伝統を継承し、守ってまいりました中日書道会ならではのことに感じました。

さて、第六十八回中日書道展に於いて、入賞の榮に浴されました皆様方、誠にありがとうございます。しかし、残念ながら今一步のところでは願いが叶わなかった方もお多いことと思っております。そうした悲喜もごもの思いを巡らす入賞結果ではありませんが、心を込めて書かれた作品への努力は、間違いなくご自身の中に、一つ一つ蓄積され、花開くための、大切な素養と成っております。

## 理事長あいさつ



理事長  
関根玉振

入賞された皆様も含め、慶びや悔しさの気持ちとは別に、今一度足元を見つめ直し、更なる高見を目指して頂ければと思います。

早いもので私も、理事長を拝命して一年が経ち、不安を抱えて船出したことが思い起こされます。役員、事務局の先生方と共に、公益社団法人 中日日本書道会を纏め、事業の推進を行ってまいりました経験が、私自身の人生勉強として、大きな宝となっております。

皆様方には、中日書道会が企画しております書道教育研修・公開講座・書展等を通じて、書技の向上や人生の楽しみへのひとつとして、お役立て頂ければ幸いに存じます。今後とも本会事業へのご参加、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 目次

- 21 名誉会長あいさつ・理事長あいさつ  
平成三十年度 総会・本会功労者表彰  
第六十八回中日書道展入賞・入選者  
樽本樹郎名誉会長代行 第四十九回東海テレビ文化賞受賞  
安藤滴水名誉副会長 第六十九回愛知県教育文化功労者表彰  
平成三十年度 功労者・感謝状・長寿者表彰  
祝賀懇談会ご来賓出席者名簿  
【愛知県・江蘇省友好書道展・交流昼食会】開催  
第六十八回中日書道展概要  
第六十八回中日書道展を觀て  
技法と表現の均衡  
名誉顧問 西嶋慎一先生評
- 8 「中部の書」の象徴を見る  
名誉顧問 田宮文平先生評  
第六十八回中日書道展審査総評  
受賞者紹介 海部俊樹賞・大賞・準大賞  
中日賞・桜花賞寸評  
その他の入賞者名  
第六十八回中日書道展当番審査員  
第六十八回中日書道展を終えて  
平成三十年度第一回理事会・総会開催  
平成三十年度総会議案書（抜粋）  
平成三十年度公開講座のご案内

## 団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化  
ユネスコの無形文化遺産に



# 平成30年度 総会・本会功労者表彰

## 第68回中日書道展入賞・入選者

### 樽本樹邨名誉会長代行 第49回東海テレビ文化賞受賞

### 安藤滴水名誉副会長 第69回愛知県教育文化功労者表彰

# 祝賀懇談会を開催して

厚生部長 古川昇史

平成三十年六月二十四日(日)、ホテルナゴヤキャッスル天空の間に於いて平成三十年度総会、第六十八回中日書道展祝賀懇談会が開催されました。

開会の前に演奏された、弦楽三重奏(ヴァイオリン・ピオラ・チェロ)の美しい調べの余韻の中で、松下英風副理事長の開会の言葉で盛大なる祝宴が始まりました。

最初にご都合で欠席されました海部俊樹名誉会長よりのお祝いのメッセージを、樽本樹邨名誉会長代行が代読されました。「日本の書道は世界に誇る文化です。後世に伝え、発展させるために世界無形文化遺産の登録をめざしており、みなさんのご理解とご協力をお願いしたい。」とのお言葉を賜りました。

続いて、来賓の皆様を代表して、愛知芸術文化センター総長神田真秋様より、「中日書道会の先

生方を中心とする日本の書の作品は堂々として、日本の精神がひしひしと伝わってくる。」とのお言葉を戴きました。次に、中日新聞社常任顧問小山勇様より、「日中合同書展のような民間が中心となった文化交流を継続していくことが大切である。若い人が中心となって書道芸術を伝えていってほしい。」又書道文化研究家の西嶋慎一様よりは、「書道は日本の文化の心である。ここに在るみなさんには、自分の日々の歩みに自信をもって大いに書道文化が日本の社会に存在するよう努めていただきたい。」とのそれぞれ熱いお言葉を戴きました。

続いて、来賓のご出席者二十名のご紹介の後、この度第四十九回東海テレビ文化賞を受賞された樽本樹邨名誉会長代行に、東海テレビ放送取締役事業局長山口貢様より花束と記念品が贈呈

されました。第六十九回愛知県教育文化功労者表彰されました安藤滴水名誉副会長に神田真秋様より花束と記念品が贈呈されました。そして、東海テレビ放送山口貢様の乾杯のご発声で祝宴が始まりました。

この後、米寿を迎えられました四名の皆さんに、樽本樹邨名誉会長代行よりお花と記念品が贈られました。ご健康で益々のご活躍をお祈り致します。

二時間余の宴も、伊藤仙游副理事長の閉会の辞により、九一九名のご出席を頂きました祝賀懇談会を盛大なうちに無事終えることが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。今後共よろしくお願い申し上げます。



愛知県芸術文化センター総長 神田真秋様ご祝辞



中日新聞社 常任顧問 小山勇様ご祝辞



書道文化研究家 西嶋慎一様ご祝辞



弦楽三重奏



祝賀懇談会風景



**改組新第五回 日展 審査員**

理事 梶山夏舟先生  
(新審査員)

**新名誉顧問**

愛知県芸術文化センター  
センター長  
名古屋市博物館館長

大参 澄夫氏  
三芳 研二氏



第六十九回  
愛知県教育文化  
功労者表彰  
名誉副会長  
安藤滴水先生



第四十九回  
東海テレビ文化賞  
ご受賞  
名誉会長代行  
樽本樹邨先生

平成三十年度  
**功労者・感謝状・長寿者表彰**

**功労者表彰**

理事長退任 伊藤 昌石氏  
常任顧問

**副理事長退任** 松永 清石氏  
常任顧問

**物故者** 黒野 清宇氏  
常任顧問 中島 藍川氏

**感謝状表彰**

理事退任 上田 賦草氏  
顧問 近藤 浩平氏  
顧問 佐藤 慶雲氏  
顧問 富田 栄楽氏  
顧問 中野 玉英氏

**部長退任** 小島 瑞柳氏  
前第二会費部長 山田 杏華氏  
前厚生部長

**支部長退任** 岩田 潤流氏  
前一宮支部長 林 玲玉氏  
前岐阜支部長



平成30年度 功労者表彰

**ご長寿お祝い顕彰者**  
(出席者のみ)

平成二十九年度中に八十八歳になられた方々

評議員 河合 桂舟氏  
評議員 野々垣清城氏  
評議員 本田 秀岳氏  
準会員 飯田 楽舟氏



ご長寿お祝 顕彰者の皆様

**祝賀懇談会ご来賓出席者名簿**

税金	司法書士	谷田義弘様	東海テレビ放送事業局長	加藤昭宏様	東海テレビ放送事業局長	山口 貢様	中日新聞社	山田雄一様	中日新聞社	後藤基夫様	中日新聞社	井戸義郎様	文化芸術局文化センター部長	佐竹裕幸様	中日新聞社	尾久充弘様	中日新聞社	寺尾晶子様	中日新聞社	小河敦史様	中日新聞社	加藤宏幸様	中日新聞社	鷺見 卓様	徳川美術館学芸部長	四辻秀紀様	中代表取締役会長	太田宏次様	中日新聞社取締役事業担当	本会名誉顧問	徳川美術館学芸部長	西嶋慎一様	本会名誉顧問	書道文化研究家	小山 勇様	本会名誉顧問	中日新聞社常任顧問	近藤昭一様	本会名誉顧問	衆議院議員	江崎鐵磨様	本会名誉顧問	愛知芸術文化センター総長	神田真秋様
----	------	-------	-------------	-------	-------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----------	-------	----------	-------	--------------	--------	-----------	-------	--------	---------	-------	--------	-----------	-------	--------	-------	-------	--------	--------------	-------

(順不同)

# 『愛知県・江蘇省友好書道展・

# 交流昼食会』開催

事務局長 大池 青 岑

大村秀章愛知県知事の肝煎で企画された「愛知県・江蘇省友好書道展」が、六月十九日から二十四日、電気文化会館において中日書道展と会場を同じくして開催されました。昨秋中国南京市で開催された書道展を愛知県でもと、中国作品六十点、日本側作品六十点、それに県内の子供たちによる八つ切り作品六十点を加え総計百八十点の展観となりました。

梅雨空のもと、初日の午前十時三十分から始まった開式では、主催者側として大村秀章知事、神田真秋国際交流協会会長、

樽本樹邨本会名誉会長代行、風岡五城東海書道藝術院会長、そして来賓として鈴木喜博愛知県議会副議長、鄧偉在名古屋総領事館総領事、奥村悠二日中友好愛知県議員連盟会長、片桐清高愛知県政功労者協会会長、来日の孫曉雲江蘇省美術館名誉館長、李嘯江蘇省美術館副館長、孫艷江蘇省美術館財務部主任の列席のもと、本会からの出品者および会員など会場入り口を埋め尽くしました。大村知事、孫曉雲氏、鈴木副議長、鄧総領事のあいさつの後、司会から展覧会の案内と祝電披露があり、列席の十名によるテープカットがありました。



続いてホテルナゴヤキャッスルに移動し、愛知県の関係者、書道展出品者など百八名の参加による交流会が行われ

ました。鬼頭翔雲本会名誉副会長、風岡東書藝会長、李副館長の挨拶があり、孫名誉館長から「書道千穂」の作品贈呈が行われました。大村知事による乾杯があり、一時間ほど歓談の後、中国側二名（孫名誉館長は「書以載道」、李副館長は「臥石聽泉」と「金聲玉振」、日本側二名（安藤本会名誉副会長は自詠の句「墨の香に」、安藤清舟東書藝副会長は「和氣満堂」）による席上揮毫が行われ交流会の幕を閉じました。書道を通じての日中友好交流が成功裏に実現されました。



大村秀章愛知県知事挨拶



友好書道展風景



樽本樹邨名誉会長代行によるテープカット



# 愛知県・江蘇省友好交流昼食会挨拶

名誉副会長 鬼頭翔雲

尊敬する孫曉雲先生、尊敬する李嘯先生、尊敬する孫艶先生、そして親愛なるご在席の皆様、「愛知県・江蘇省友好書道展」〈愛知県展〉の開催にあたり中日書道会を代表してご挨拶を申し上げます。

この友好書道展は日中平和友好条約締結四〇周年を記念して開催されるものであります。中国展は既に昨年十一月に江蘇省南京市で開催されました。その際には私共、中日書道会から六十五名の会員が開幕式に参加致しました。式典そして交流会では熱烈歓迎、そして、心温まる「おもてなし」を受けました。本当に有難うございました。

本日開催初日を迎えましたこの友好書道展会場では本会主催の第六十八回中日書道展が併せて開催されており、三会場を使用し、四〇〇〇点を上回る作品が展観されております。

私共、中日書道会は二〇〇五年に開催された日本・愛知万博において「世界のSho・日本の書」と銘打って、中国・韓国・日本の三国で合同書展を開催致しました。

更に本会では二〇一四年、創立八〇周年を記念し、「いっしょSHO懸命・楽しい書！」

と銘打ってこの名古屋市において大々的に「書の祭典」を行いました。

IT化が加速しておる現代、文字を書くという所作が減少してきており、私どもは、これらの諸行事を通じて書の魅力、書の意義、書の重要性を社会に発信して参りました。

本日は書道源流の地、中国からお客様をお招きしての催しでありまして、意義も一層深いものとなりました。

これを機会に、世々代々にわたる友好の促進と、芸術文化の一層の交流を心から願うものでございます。

孫曉雲先生、李嘯先生、孫艶先生には日本の初夏をお楽しみください。そして、一層の御活躍と御健勝、御多幸をご祈念申し上げます。

終わりにのぞみ、この度の友好書道展・中国展と愛知県展の企画から運営まで格別の御尽力を賜りました愛知県・江蘇省書道展実行委員会事務局の皆様衷心より厚く御礼申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

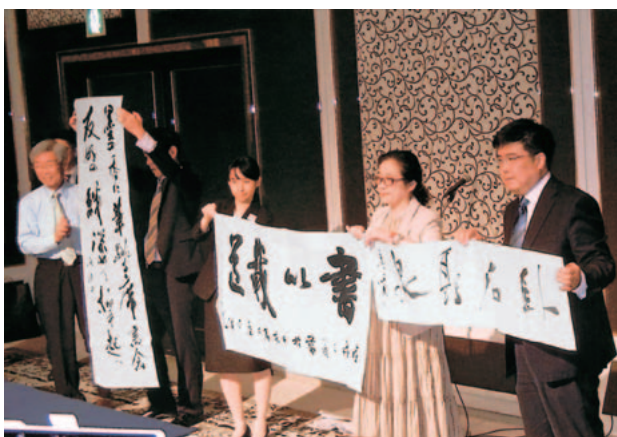
誠にありがとうございました。謝々。



昼食会風景



鬼頭翔雲名誉副会長昼食会挨拶



席上揮毫作品



安藤滴水名誉副会長による交流揮毫

# 第68回

# 中日書道展



漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字

入場料 300円  
(小・中・高生 無料)

## 電気文化会館

6月5日(火)～6月10日(日)

東・西ギャラリー

二科審査会員作品 (漢字)

午前10時から午後6時

最終日の10日(日)は午後3時まで

6月19日(火)～6月24日(日)

東ギャラリー・イベントホール

審査顧問、特別出品、一科審査会員作品

午前10時から午後6時

最終日の24日(日)は午後3時まで

## 名古屋市民ギャラリー栄

6月19日(火)～6月24日(日)

二科審査会員作品

(かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字)

午前9時30分から午後6時

最終日の24日(日)は午後4時30分まで

## 名古屋市博物館

6月20日(水)～6月24日(日)

依頼・無鑑査作品

午前9時30分から午後5時

6月27日(水)～6月28日(木)

一科作品

午前9時30分から午後5時

6月30日(土)～7月1日(日)

二科作品

午前9時30分から午後5時

最終日の1日(日)は午後3時まで

同時開催  
愛知県・江蘇省友好書道展  
(愛知県展)  
6月19日(火)～6月24日(日)  
電気文化会館 西ギャラリー  
午前10時から午後6時  
最終日の24日(日)は午後3時まで (入場 無料)

主催／公益社団法人中部日本書道会・中日新聞社 後援／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市、各教育委員会

### 出品数一覧表

	一部 (漢字)	二部 (かな)	三部 (近代詩文)	四部 (少字数)	五部 (篆刻・刻字)	出品点数
審査顧問	2	-1	0	0	0	1
	8	0	2	0	0	10
特別出品	0	0	0	0	0	0
	1	0	0	0	0	1
一科審	-22	-5	-3	0	-3	-33
	286	70	59	36	20	471
二科審	9	3	1	-1	0	12
	411	77	113	37	28	666
依頼	-4	-5	-3	-5	2	-15
	300	60	80	19	25	484
無鑑査	16	1	-7	1	-11	0
	333	57	89	22	28	529
無鑑査 ～21歳	0	0	0	0	0	0
	1	0	0	0	0	1
一科	-36	-6	0	-7	-8	-57
	462	82	138	34	59	775
(18～21歳)	4	-1	3	0	0	6
	48	0	22	0	0	70
(15～17歳)	-3	0	2	0	0	-1
	3	0	2	0	0	5
二科	-42	-4	-10	5	-4	-55
	351	83	105	38	35	612
(15～21歳)	-44	0	2	-1	-2	-45
	283	5	124	16	5	433
出品合計	-120	-18	-15	-8	-26	-187
	2,487	434	734	202	200	4,057



賑わう第68回中日書道展



電気文化会館受付風景

力強さや巧みさ  
400点超える作品  
名古屋で中日書道展  
第六十八回中日書道展  
(中部日本書道会、中日新聞社共催)が名古屋市栄区栄の電気文化会館などで開かれている。  
中部日本書道会は約四千五百人が所属する中部随一の書道団体。今回は会員を中心に四十点を超える作品が寄せられた。メイン会場の電気文化会館のほか名古屋・栄の市民ギャラリー栄と同市瑞穂区の市博物館でも展示する。  
電気文化会館では榎本樹 氏(名古屋市長代行)や関根玉振 氏(伊藤仙遊副理事長)は「展覧はいろいろな作品を研究し表現を磨いている。パライエティに富んだ作品が見どころ」と話した。  
会期は、電気文化会館と市民ギャラリー栄は二十四日まで。市博物館は二十日～七月一日(二十五、二十六、二十九日を除く)。各会場共通の入場券は三百円。小中高生は無料。  
会場に響きわたる書道展の風景



# 第六十八回中日書道展を觀て

## ——技法と表現の均衡——

名誉顧問 西嶋 慎 一



境地に入っている。

第六十八回中日書道展は、技法と表現の両面で、特色を示す展覧会であった。今回は、特に、愛知県・江蘇省友好書道展が併載されていただけに、中日書道会諸氏作品の特徴が良く判った。

江蘇省の各位は、表現が前面に出て、その作品を印象づけている。作家の個性発露が制作の目標になっているのであろう。尉天池の作がその象徴であり、幹部の言恭達、徐利明、李嘯等がその代表である。

中日書道会各位は、まず技法学習があつて、その道が熟するに従つて表現として発揮される。そして、ここが、つまり中日書道展の審査基準なのであろう。樽本樹邨、安藤滴水、黒田玄夏、土屋陽山、平松紫雲各氏の作品世界がその代表である。

土屋陽山は筆づかいが実に若々しい。平松紫雲もそうである。孫過庭が、書の目標として説く險絶から平正に向う世界であらう。黒田玄夏、安藤滴水、後藤汀鷺もこの

樽本樹邨は含蓄に富んだ楷書。基本は北魏・造像記の風だが、ちかごろとみに筆画に動きを欲している。近々十年来、樽本は蘇東坡を深く学んでいるが、その一つの成果なのであろう。

関根玉振がその後を追うが、未だである。山際雲峰もそうである。樽本配下の鬼頭翔雲は隸書作だが、馬王堆に倣った風が面白い。馬王堆の風はとかくデザイン文字に流れ勝ちだが、味わい深くまとめた手腕は、鬼頭の学習の深さを物語るのであろう。堅実だけが目立つ横井宏軒に比し一日の長がある。

大池青岑の草書は筆がこなれて来た。松永清石も同じ、天野白雲は独草の風で章法に秀れる。上田賦草の筆さばきの良さは美事だ。

伊藤仙游は、密度とスケールの大ききで訴求力の強い作に仕上げている。今回展の問題作の一つだろう。大島緑水の筆の大きな動きも魅力である。片山清洲、加藤矢舟は闊達な筆の動きが目覚ましい。

木俣紫香、工藤俊朴も筆のさばきで見せ

る。後藤啓太も重厚な筆さばきで密度の濃い世界を演出する。逆に原田凍谷は造形意識が先行してはいまいか。川崎尚麗も大字二字部分の構成に作意が目立つ。

梶山夏舟は名うての書き手だが、まとまりに注力し過ぎて、少しスケール感に欠ける。師である殿村藍田の活力を見習いたい。

仮名では、山本雅月の緻密、馬場紀行のタッチの強さ、村瀬俊彦の動勢が好ましかった。近藤浩平のシユールな景色は意欲作。新しい世界の展開を模索しているのであろう。

押し出しの良さで勝負するのは早川泰山、佐藤慶雲、林柏堂、鈴木香鵬、川合玄鳳だろう。鈴木立斎の篆刻は手堅い。

翠軒門の伊藤昌石、古川昇史、松下英風諸氏は、少し遅筆の効果を考えたかどうか。翠軒先生の「三條の上で逢いけり朧月」の風格が欲しいものだ。

加藤裕の長谷川權の句は力作だが、權先生が重視する「間」が取れているようか。

岡野楠亭は例の如く古璽の腐爛した味を再現する。篆刻芸術における印象派とも野獸派とも申せようが、左二字の格調世界を押し出し

や篆刻の唯一の目標ではなからう。

海部賞の田中雅子は、技法と表現に均衡が取れている。大賞の古田光波は、技法が熟した成果だろう。

準大賞では、金子光晴詩を横に大胆に展開した堤光星、矢田部里美の構成力、榊原令子の素直な筆、若杉美香の筆力の強さが眼についた。

中日賞の上野明美、宮島みどり、桜花賞の内田晃州も好ましかった。



作品ご観覧の西嶋慎一先生

# 「中部の書」の象徴を見る

名誉顧問 田宮文平



さて、中日書道展であるが、漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字の各部門が揃っており、会派を超えて出品されているので中部圏の書の実勢を概観することができ

中部圏には、公益社団法人・中部日本書道会（理事長関根玉振）があり、関西圏には、公益社団法人・日本書芸院（理事長黒田賢一）があって、それぞれの地域の象徴的存在となっている。首都圏にはそれに相当するものはないが、謙慎書道会（理事長高木聖雨）、創玄書道会（理事長室井玄聳）、独立書人団（理事長仲川恭司）等、数千点の規模の書団体が覇を競っている。これらが、いわば三大書道地域で中部日本書道会

は、その一角を占めているのである。

この中部日本書道会の年間の最大の行事が、今回、第六十八回を迎える「中日書道展」である。折から例年の愛知県美術館が改装中で電気文化会館ほかでの開催となった。メイン会場となった電気文化会館では、西ギャラリーで「愛知県・江蘇省友好書道展」が同時開催されており、中日書道展ともども格別の賑わいを見せて注目を集めていた。

まず三役では名誉会長代行の樽本樹邨

「衾影無慙」は北魏調の豪宕の楷書。語句も心境を托して力強い表現となった。名誉副会長の安藤滴水「道風」は宮崎丈二の詩。方形の空間に四行の展開で潤渇を生かして格調高い。同じく鬼頭翔雲「惺霊集語録」は七言句の帛書調の書で力強さの中にも情感のあふれる作である。

執行部では理事長の関根玉振「九層臺起疊土」は六言句の楷書を骨格強固かつ清冽に書く。副理事長の伊藤仙游「散策塵外游」は蘇軾の詩句で新世代らしく勢いのある草書。同じく岡野楠亭「主忠信」は論語による白文印で大胆な発想と共に刻法も美意識が高い。同じく松下英風「心遠地白偏」の五言句は淡墨の和風空間の草書が独特である。事務局長の大池青岑「無題」は縦三行の行草体が自在に展開する。

次に常任顧問クラスには、かつて役職をこなしたベテランがずらりと並んでいる。伊藤昌石「烟中帆影」は標題通りの抒情的

タッチが美しい。黒田玄夏「田宮朋子のうた」は、縦二行に诗情あふれる近代詩文書。後藤汀鶯「窗梅」は上田溪水詩。縦二行に逞しい行草体を展開。土屋陽山「荘子」は天地篇からで八言句を大きく、つづく二行を小さめに独特の空間構成。平松紫雲「萬葉集」は横形式に八行の万葉仮名は情趣この上ない。中林路風「養基拙」は萬物以下の七言句を淡々とこなしている。松永清石「唐詩」は、縦三行に求心力のある筆致でまことに爽快。

以上の主力作に、かなや少字数がないのが残念であるが、かなで黒野清宇、後藤秀園、少字数で戸田提山らを失ったことが大きいのもかもしれない。

次に理事監事クラス。漢字が圧倒的に多

- く天野白雲、梶山夏舟、片山清洲、加藤矢舟、川崎尚麗、木俣紫秀、工藤俊朴、中林景、平松采桂、古川昇史、松浦華苑、山内江鶴、山際雲峰、横井宏軒、伊藤暁嶺、拓英峰、かなは馬場紀行、村瀬俊

彦、山本雅月とまことに少ない。近代詩文は、大島緑水、加藤裕、後藤啓太、武内峰敏、原田凍谷、佐野翠峰ら創玄系を中心に支える。少字数は波切童州、水谷海越ら独立系が中心である。篆刻は理事では鈴木立齋一人であるが、ここでは磯貝弘子、鎌倉彩風、小坂克子、日比野紀扇らの女性陣の活躍に目を瞠った。財界の太田偕風の朱文印にも注目。

受賞作は名古屋博物館での陳列となったが、海部俊樹賞の田中雅子は、土井晚翠詩によって縦二行の展開。漢字の力に平かなをよく合わせる。大賞の吉田光波は縦三行の行草体は充実して将来性を感じさせた。



作品ご観覧の田宮文平先生



# 第六十八回中日書道展 審査総評

審査部長 伊藤 仙游



第六十八回中日書道展に入賞、入選されました皆様、誠にありがとうございました。本年度審査部長を仰せつかり、責務の重大さに苦慮いたしました。

この大役を無事果たすことが出来ました。これも偏に審査部副部長、主任、委員の優秀な先生方のご支援、ご協力の賜と、先ず以て御礼申し上げます。

昨今の厳しい状況下ではありますが、今年度の出品総数は四〇五七点でございました。ご出品いただきました指導者の先生方の、深いご理解と熱意に対して心より感謝申し上げます。

審査は五月十九日から二十一日まで愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において実施されました。当然のことながら審査員の先生方には、良い作品に良い結果が与えられるよう、一党一派に偏することなく、また公明正大にとの基本方針に基づき臨んでいただきました。

第一日目は二科公募作品一〇四五点の中から、二

日目は一科作品八五〇点の中からそれぞれ定められた入賞比率に従い選出、決定をしていただきました。

最終日には特別賞選考委員の先生方による慎重な審査により、無鑑査作品五三〇点の中から中日賞五・桜花賞七五点を、また依嘱作品四八四点の中から準大賞四六点を選考して頂き、最高賞の海部俊樹賞には三部の田中雅子さんが、大賞には一部の吉田光波さんが、それぞれ受賞の栄誉に輝かれました。

出品された作品はどれも錬度が高く、古典を基調にした格調の高い作、斬新で個性豊かな作など多種多様で、質的な水準の高さを実感いたしました。

また若年層も、一科二科合わせて五〇八点の出品があり、作品内容も益々充実し上位入賞者も多く見受けられました。今後のご活躍を期待しております。

厳しい審査の中、見事入賞された皆様は、更に次の目標に向かい大きく飛躍されますことを祈念いたします。また、惜しくも目標に及ばなかった方々は、この結果に怯むことなくお一層のご精進をご期待申し上げます。

最後に今回の審査に当たり、ご指導ご支援ご協力を賜りました全ての皆様にご心からの感謝と御礼を申し上げます。

（授賞式 審査総評より）



特別賞選考委員

# 海部俊樹賞・大賞・準大賞 受賞者紹介

〈作品評〉 松下 英風 (一部)・馬場 紀行 (二部)・大島 緑水 (三部)  
波切 童州 (四部)・岡野 楠亭 (五部)

## 海部俊樹賞

第三部 田中 雅子



この度は、栄誉ある海部俊樹賞を賜り、誠にありがとうございます。誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。思いもよらぬ身に余る大きな賞に喜びと驚きと共に、賞の重みに身の引き締まる思いで居ます。これも偏に、根気強くご指導頂きました師匠のお

蔭と、深く感謝申し上げます。又諸先生、先輩方、書友の皆様の支えがあり、今日を迎えられたのだと思っております。今回の作品は、流れのある構成とリズム感に苦慮しながら最後に書き上げたものです。勉強不足で未熟な私ですが、この受賞を励みに心新たに努力を重ねて参りますので、今後共ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

### 〈評〉

線の輝きが際立ち美事。文字の大小も自然で高度な技法が目を引く。



## 大賞

第一部 吉田 光波



この度は思いがけない栄誉ある「大賞」を戴き、身に余る光栄と深く感謝しております。この日を迎えさせていただく迄には様々な葛藤がありました。師匠の「内圧と外圧に負けるな」の一言で歩みを進めることができました。

これからも王鐸の作品にとり組み師のご指導のもと、より一層の精進をして参りたいと願っております。今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

### 〈評〉

古典に習熟、大胆にして品位に優れた躍動感のある作。



平成30年度総会・功労者表彰  
第68回中日書道展授賞式  
公益社団法人 中部日本書道会

大賞・準大賞 (1部) 受賞者



準大賞 第一部 安藤 恵



この度は、榮譽ある賞を賜りまして、誠にありがとうございます。思いがけない受賞に驚きの気持ちで

いっぱいです。これも偏えに師匠はじめ諸先生方、社中の良き先輩方のご支援、そして家族のお陰と心より感謝致します。

作品制作においては、毎回、師の熱心なご指導のもと、自分の力の無さを痛感し、作品作りの難しさを感じております。師の「書くことに無駄はない。書いた分だけ上手くなる」という言葉に、ひたすら書き続けて参りました。まだまだ未熟な私ですが、今回の賞に恥じぬよう精一杯努力して参ります。今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

疎密潤濁のところを得て流動美と充実感のある作。

準大賞 第一部 伊藤 東 苑



この度は栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。仕事と家事とで忙しい中、中日書道展へ

の出品はライフワークの一つとして続けてきましたが、思わぬ朗報に、驚きと戸惑いを感じつつ身に余る榮譽と喜びでいっぱいです。

これも偏に常に個人を尊重しながら指導してくださいました師匠と、妹も含め共に励んできた社中の皆様、そして書道との出会いをくれた両親と理解し応援してくれた主人と息子のお蔭と深く感謝致します。今後はこの賞に恥じぬよう一層の精進を心がけてまいりますので、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

振幅のきいた優れた構成、構成美、流動美、品位に富む詩情豊かな作。

準大賞 第一部 石本 麗 水



「第六十八回中日書道展」において、榮譽ある『準大賞』を戴き、誠にありがとうございます。

これも偏にご指導下さいました師匠をはじめ恩師、諸先生方、諸先輩方、書友の皆様のお蔭と心から感謝しております。今回は文字の大小、潤濁、行間の余白、墨

量等に配慮し、CDを聞きながらリズムミカルな作品の仕上げを目標としました。生活の中に「書の一瞬」が持てる幸せを了知して、一層の精進をして参りたいと思います。今後とも御指導賜ります様よろしくお願ひ申し上げます。

大胆な筆致と構成、優れた筆意を彷彿させる作。

準大賞 第一部 大河戸 柳 光

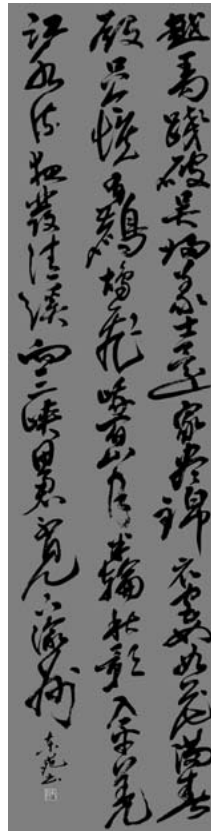
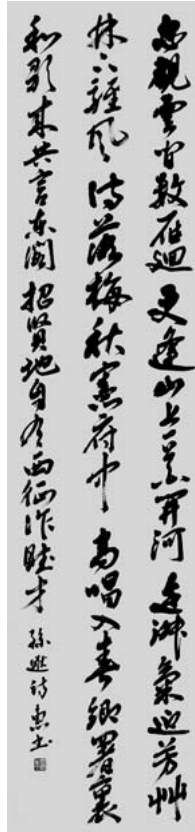


この度は、栄えある賞をいただき、誠に有難うございました。若い時から今まで書の道が続けられ、今日を迎える事が出来たのも、熱心にご指導下さいました恩師を始め、仲間の皆様方のおかげと深く感謝申し上げます。

この度は、栄えある賞をいただき、誠に有難うございました。若い時から今まで書の道が続けられ、今日を迎える事が出来たのも、熱心にご指導下さいました恩師を始め、仲間の皆様方のおかげと深く感謝申し上げます。

作品制作にあたっては、まだまだ勉強不足を痛感する日々ではありますが、今後とも、基本に立ち返り魅力ある作品作りを目指して努力して行きたいと思ひます。今後共にご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

線の深淺と筆の開閉、立体感、流動美に優れた作。



準大賞

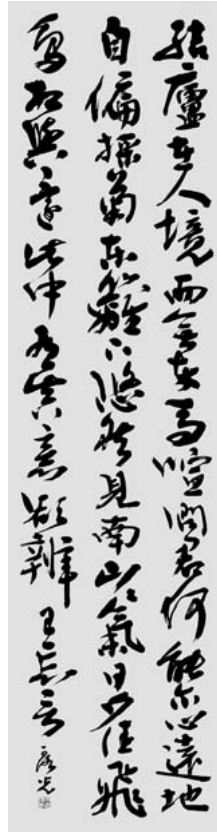
第一部 大寄 露光



幼稚園児の時に、初めて筆を持つことを覚え、次第に書に対して興味を抱くようになりました。しかし、

紆余曲折の人生で、書制作は定年退職をしてからでした。

今回の出品作は、唐詩五言律詩を選び、三



行書にしました。師の教えのもとで、一文ずつの工夫、行間の余白の取り方、墨の含み方の調整などを考慮しました。

〔評〕

墨量の変化、行相互の響きよく文字の大小が上手く噛み合った作。

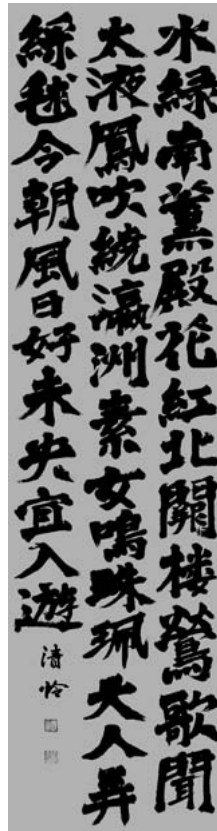
準大賞

第一部 倉科 清恰



この度は、荣誉ある準大賞を頂き喜びと感謝の気持ち、胸が一杯です。いつも熱心に、温かく、優しくご指導

下さる師と仲間のお陰と深く感謝申し上げます。師の字を目にした時、初めて見る書体に、驚きと感動を覚えました。



「この書体は、どこから来たものですか?」とお尋ねしたら「龍門だ」と言われました。私でも書けるのだろうか? いや、書いてみたい!と:

スケールの大きい、暖かい文字に、挑戦して行きたいと思えました。この賞を励みに、日々精進を重ねて参りますので今後共、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

古典に立脚した形象と筆線、疎密、緩急ともに充実した作。

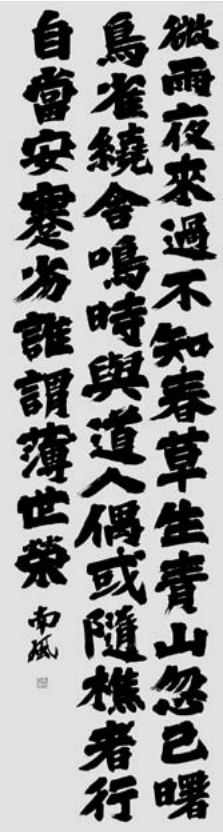
準大賞

第一部 大橋 南風



この度は栄えある準大賞を頂き誠にありがとうございます。師匠はじめ諸先生の温かく熱心なご指導の

賜と深く感謝しております。家族の応援もありがたく思い書を続けてこられたことに幸せ



を感じています。

線の鋭さと余白のバランスを考えて作品作りをしています。思うような作品にはならず未熟さを痛感しております。

今回の受賞を機にまた新たな気持ちで一歩一歩努力してまいります。今後共よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

古典に立脚、大胆な筆致と構成の妙、品位にも優れている作。

準大賞

第一部 近藤 翠嶺



この度は思いもよらぬ大きな賞の朗報をいただき、驚きと喜びとともに身の引き締まる思いを致しております

ます。これもひとえに長年にわたり熱心にご指導



下さいました師匠はじめ、諸先輩方の温かい励ましのお言葉のおかげと思っております。心より厚くお礼申し上げます。

まだまだ未熟で勉強不足を痛感しておりますが、より一層努力し精進してまいります。今後ともご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

充実した四行構成、行間の処理も良く、さわやかな雰囲気を持った作。



準大賞

第一部 佐藤 麗 水



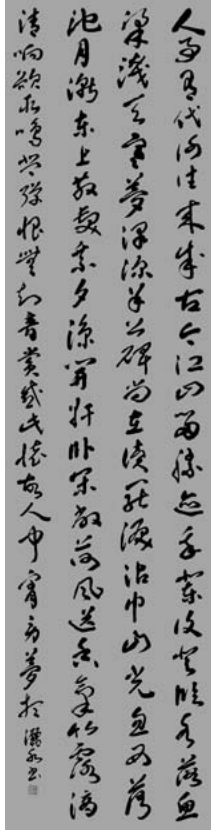
この度は、栄誉ある準大賞を賜り、ただ驚いておられます。これも偏に幼い頃よりご指導下さった師匠、

諸先輩のお陰と感謝の気持ちで一杯です。数年前、于右任の臨書をと勧められ取り組んでまいりました。簡略化された独特な草書

体、おおらかで柔らかい線、その丸みをおびた雰囲気にはほど遠いものしか出来ず今日に至っております。今後、社中展のテーマでもありました「稽古照今」の意を忘れず、師匠の指導の下、臨書を積み重ね自分なりのペースで精進していければと思っております。本当にありがとうございます。

〔評〕

疎密、余白、行相互の響き等、配慮の行き届いた作。



準大賞

第一部 澤田 琇 川



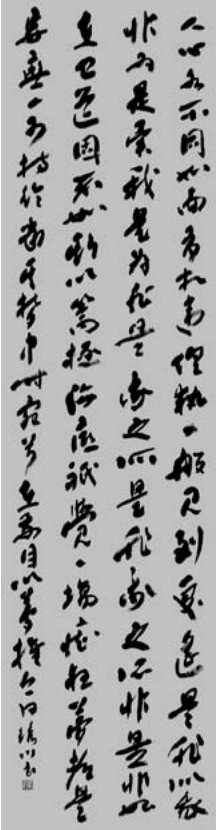
この度、第六十八回中日書道展において、準大賞という栄誉ある賞を賜り、誠に有難うございます。

これも偏に、温かくご指導下さいました師をはじめ、諸先生方の温かい励ましと、いつも身近で応援してくれる家族のおかげと、心より感謝申し上げます。

作品を書くにあたって、墨量や強弱のバランスが難しく、「楽な気持ちで書けば良いよ」との励ましの言葉で『ホツ』とした気持ちで書く事が出来ました。今回の受賞を励みに、これからも自分らしい作品が書けるよう精進して参りますので、今後ともご指導の程、宜しくお願ひします。

〔評〕

疎密、強弱、渾然一体、造形美に優る作。



準大賞

第一部 島田 楓 林



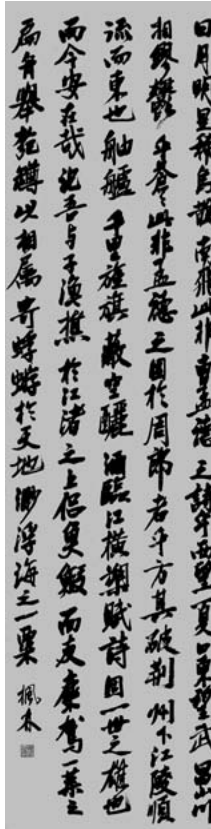
メールで一報を知り、驚きが治まらないまま現在に至っております。想えば、息子が高校一年の時、徐々に

上手くなっていく書道の世界を見て、師匠に弟子入りしました。初めての応募作品は、一行が歪んでとても未熟なものです。その後、

墨のつけ方や筆の運び方と行間などの指導も受け、また諸先輩方の作品も鑑賞させていただきました。なかなか作品に取り組めない時がありました。書友の励ましがあり今回の受賞になったと思っております。感謝の言葉しかなかった。今回を機に益々精進したいと思います。ありがとうございます。

〔評〕

形姿よく、遅速緩急の流れあり。生氣と豊かな表情に富む作。



準大賞

第一部 高橋 寿 香



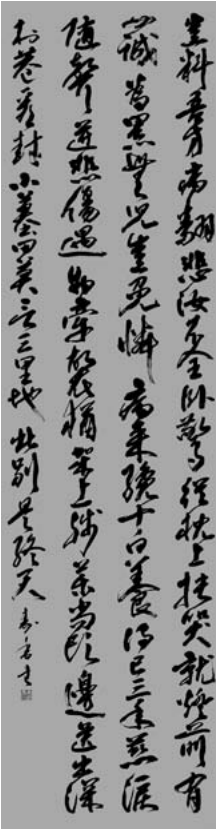
この度は、栄えある準大賞を頂きました。これも偏に、幼少の頃から長きに

巨りご指導頂き私を書き道へ導いて下さった亡き恩師を初め、日頃から温かくご指導下さる諸先生方のお蔭であり、厚く御礼申し上げます。

今回の作品では、これまで賜った指導を心に留め、試行錯誤を重ねながら、一枚の作品の中で見せ場を作れるように心掛けました。私にとつての書道は、幼少の頃から常にそばにあり、私に喜びや誇りを与えてくれる、人生の一部です。今後も書道を大切に、今回の受賞を励みに、精進して参りたいと思ひます。

〔評〕

配列、墨つぎと潤濁よく、抑揚のある作。



準大賞

第一部 竹中 青蘭



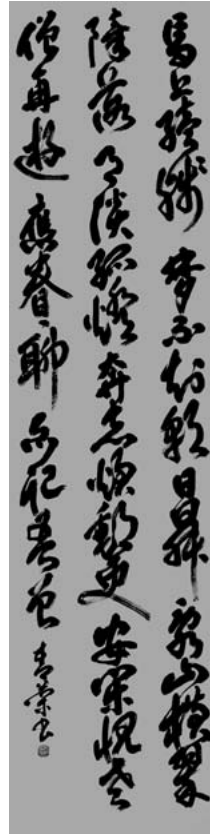
この度は栄誉ある賞を賜り誠にありがとうございます。偏に熱心にご指導下さいました。また明日に繋げていく日常を心に刻んで歩みたいと思います。今後共にご指導賜りますようお願い申し上げます。

た師匠、並びに私

墨の香りを楽しみながら歩んできたように感じてます。そんな中でこのような賞を受賞させて頂いたことは感慨無量です。これからも恵の光を喜び慈しみながら、また明日に繋げていく日常を心に刻んで歩みたいと思います。今後共にご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

相譲相避、構成に細かな配意をみる形象と生気あふれた作。



準大賞

第一部 武山 春陽

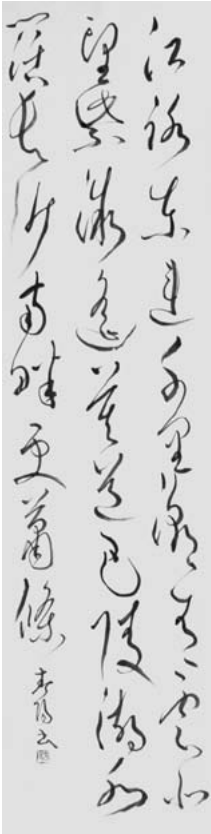


「何かしら」と電報を受け取りましたが、中日書道展 準大賞、受賞の嬉しい知らせに驚きで胸がいっぱいでした。今回は、買至の七言絶句を中日サイズに書作いたしました。二十八文字は新たな挑戦でした。

たが縦長になる文字を単調にならないように苦勞して書きました。先生の熱心なご指導をいただきながら、努力を重ねてきた甲斐があり、大きな喜びに浸っております。この賞を励みに、健康に留意しながら、一層の精進をしてゆきたいと思えます。ありがとうございます。

〔評〕

生気の横溢、流動美の優れた作。



準大賞

第一部 長崎 成 秀



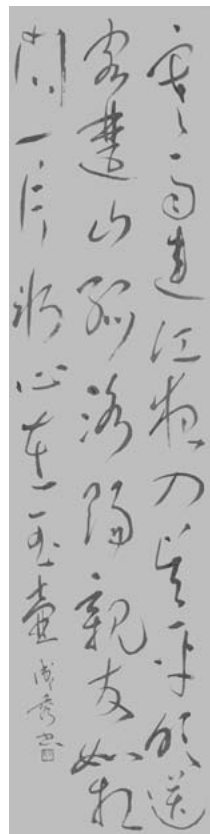
この度は、栄誉ある準大賞を頂き誠にありがとうございます。喜びと共に賞の重みに身が引き締まる思いです。これも偏に、温かく熱心な御指導を下さいました師匠はじめ社中の諸先生、諸先輩方に御礼申し上げ、また家族の応援のお蔭で

共

今日があると嬉しい感謝しております。今回の作品は線質、行間の余白、墨色の調和に注意し流れのある作品になる様心がけましたが、まだまだ未熟さを痛感しております。こまめな書を通してこれらに感謝し、この賞に恥じないよう努力、精進したいと思います。今後共御指導賜りますようお願い申し上げます。本当にありがとうございます。

〔評〕

鮮やかな筆線と形象良、遅速緩急、品位ある心手一如の作。



準大賞

第一部 中山 沙 渚

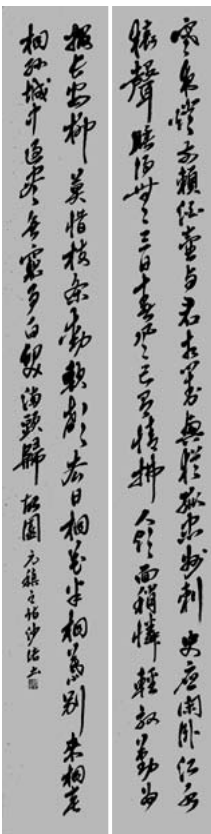


この光栄を戴きましたことは、偏に師匠はじめ、諸先生方のあたたかいご指導とご厚情のため、たままでございます。深く感謝し、心から

この度、第六十八回中日書道展におきまして、栄えある準大賞をいただき、喜びと感激でいっぱいです。御礼申し上げます。大好きな書の道を進むほどに、その奥深さを知り、自分の未熟さを実感する毎日です。今後は、この喜びを糧に受賞に恥じぬ様、一層精進をしまいたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございます。

〔評〕

静中の動、温雅にして品位に優れた作。





準大賞

第一部

錦

香 籬

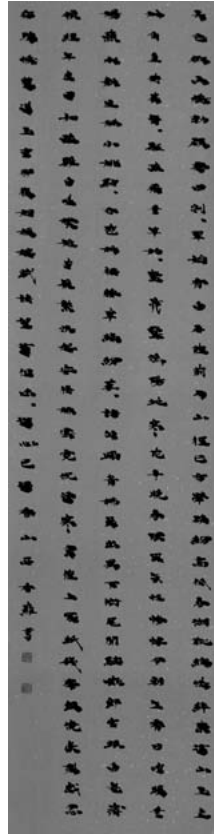


この度は、栄誉ある準大賞を賜り、誠に有り難うございました。これも偏に永年に亘りここまで導いて

くださった師と諸先輩方のお陰であると心より感謝致しております。今回の作品は行間のバランスと墨量に気を

配りつつ書きましたが、なかなか納得のいく作品に仕上がらず、心の焦りを感じながらも何とか今の自分の持てる力を出し切れた作品が出来上がったと思っております。今回の受賞に恥じぬよう尚一層、精進を重ねて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉 古典を踏えた心手雙暢の作。



準大賞

第一部

林

秋 芳



この度は、準大賞という榮譽ある賞を頂き、誠に有難うございました。思いがけない

受賞に感謝の気持ちで一杯です。勉強不足の未熟さの中、亡き師匠の書を追いかけて試行錯誤の連続でしたが、諸先輩方の熱心なご指導と励ましにより

今回の受賞となりましたことに、心から感謝申し上げます。そして書を何より愛し、学び研究されている社中の先生方の姿にいつも背中を押して頂いているように感じております。今回の作品は、全くの自己流で未熟な作品となり古典臨書の大切さを痛感致しました。今後とも情熱溢れる社中の皆様の背中を覗ながら精進してまいります。

〈評〉 骨気と秀潤に富む、立感に満ちた三行構成の作。



準大賞

第一部

堀 尾

南

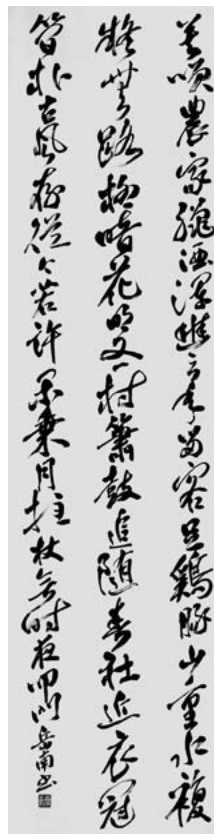


この度は栄えある準大賞を受賞する事が出来、大変光栄に存じます。審査員の皆様をはじめ、直接指導下

さいました先生には、心よりお礼申し上げます。日々の生活に追われ、書く時間を確保する事が難しい中で、何とか作品を書く事が出来

ました。「塵も積もれば山となる」と申します。短い時間でも、こつこつと練習して来た事が、実を結んだと思います。まだまだ未熟ですが、これからも精進し、この賞に恥じぬような作品を書いていきたいと思っております。これからも、ご指導よろしくお願いいたします。

〈評〉 叙情豊かな清新は会心の作。



準大賞

第一部

牧 野

瑞 葉

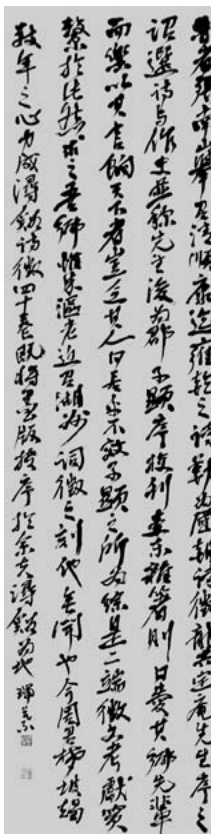


この度は、思いがけなく準大賞という名譽ある賞を賜りまして誠にありがとうございます。連絡を頂いた

時は全く信じられない思いで驚きました。これも偏に、師をはじめ、諸先生方のご指導ご支援の賜と心より感謝しお礼を申し上げます。

す。いつも応援してくれる家族、教室の先輩方にも感謝申し上げます。今回の作品は呉昌碩を題材にしましたが、墨量不足と線の強さが出せず枚数と時間が過ぎ思うように書けず悩みました。このように大変未熟者ではありますが、この賞を励みに一層精進してまいります。今後ともどうぞご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〈評〉 気韻生動、五行構成よく優れた作。



準大賞

第一部 水谷勝代



この度は、栄ある準大賞を頂きありがとうございます。入賞の通知を頂いた時は、驚きと、戸惑とで胸が

いつばいでした。これも長年にご指導頂いた師を始め諸先生方に心より御礼申し上げます。共に学ぶ教室の皆様、支えてくれた家族

の理解に心より感謝しております。まだまだ未熟な私ですが、この賞の名に恥じぬ様精進して参ります。今後ともご指導の程宜しく御願ひ申し上げます。ありがとうございます。

〔評〕  
適潤な気品、躍動感のある作。

準大賞

第一部 水野菜月



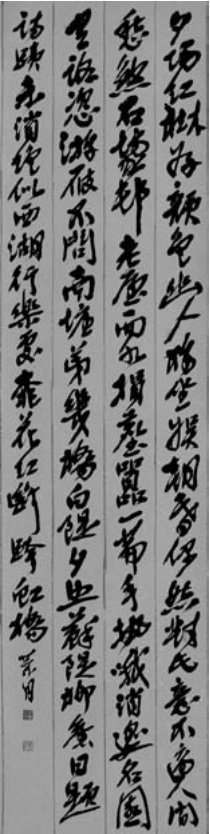
この度の中日書道展におきまして、栄誉ある「準大賞」を賜わり、誠に有り難うございます。これも偏

に熱心に温かくご指導くださいました師をはじめ、社中の良き先輩、友人方の温かいご支援の賜物と、心から感謝申し上げます。

作品つくりにおきましては遅速の変化、墨量の潤濁、余白の美しさ等に留意し、線質の緩急をすることに心掛けました。今まで以上に一層古典の臨書に取り組み、自分なりの書風を追求して参りたいと思います。

この賞を励みにより一層努力、精進してまいる所存でございます。本当にありがとうございます。

〔評〕  
遅速緩急あり、作品構成の妙、調和のとれた作品。



準大賞

第一部 矢上扇麗

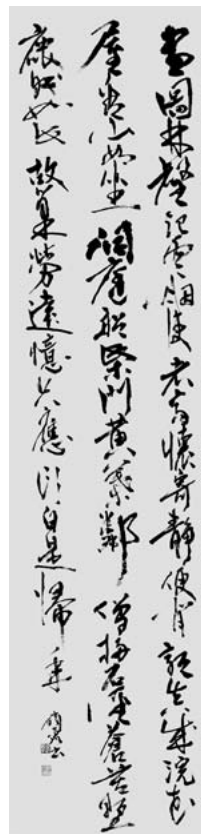


この度、中日書道展におきまして準大賞をいただき、驚きと喜びの気持で一杯です。有難うございました。

十三年前、病に倒れた時は書を辞めようと思いましたが、恩師に「無理をせずによつくり」と温かい言葉をかけていただきました。

た。諸先生、書友仲間にも励まされて今日迄続ける事が出来ました。今後更に精進してまいります。ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

〔評〕  
骨気適潤あり、個性豊かな作。



準大賞

第一部 山崎紅影

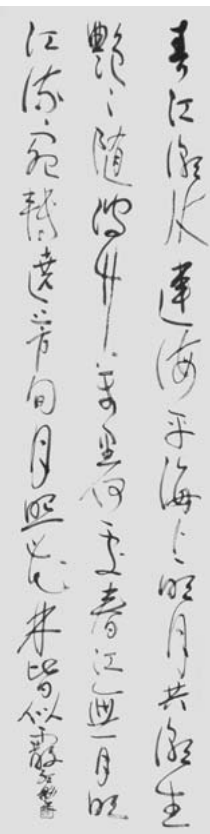


この度は準大賞という身に余る賞を賜り、感謝と共に身の引き締る思いです。「継続は力なり」幾多の先

人に使われたこの言葉が一番に浮んできました。毎日コツコツと少しずつでも書いて、書いて、もうやめようと思った時あと少しだけ

頑張ってみる。そんな小さな頑張りを実を結んだ時、永きに渡り温かくご指導、ご支援くださった恩師をはじめ頑張る背中を押してくださった先輩方に感謝し、御礼申し上げます。今後は頂いた賞に恥じない様、一層精進して参ります。誠に有難うございました。

〔評〕  
平正と險絶が上揚された個性ある作。





準大賞

第一部 安達 春翠



この度は中日書道展におきまして、思いもかけず準大賞を賜りました事を誠に光栄に存じております。これも偏に温かくご指導下さいました師を始め、社中の皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。

いつも恩師からご指摘を頂いている墨量や全体のバランス等、心がけてまいりましたが、納得のいく作品にはまだまだと未熟さを痛感しております。

今回の受賞を励みに一層精進して参りますので、今後共にご指導賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

一定のリズムを取りながら虚と実が共に輝き豊かな趣を持つた作。



準大賞

第一部 家田 翠徑



この度は、榮譽ある準大賞を頂きまして、誠にありがとうございます。これも偏に熱心にご指導下さいました師をはじめ、諸先生方や社中の皆様のお蔭と心より感謝しております。

今回の作品は、初めて三尺×三尺のサイズに取り組み、行間や文字の大小、強弱を心がけて書きました。力不足でなかなか思うようには書けませんが、今後も楽しく書が続けていければと思っております。

この受賞を励みとして、より一層精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしく願ひ申し上げます。

〔評〕

紙面構成よく、骨力と気韻生動のある表情ゆたかな作。



準大賞

第一部 金子 秀越



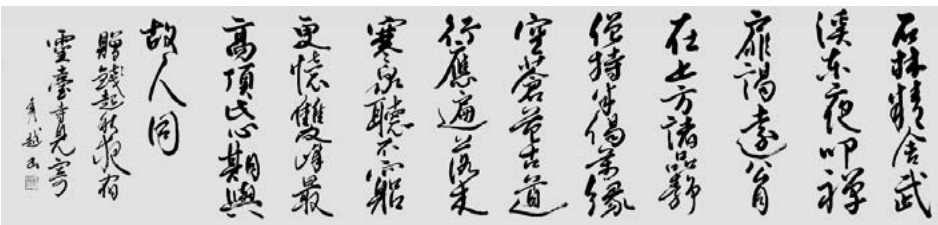
この度、準大賞という栄えある賞を受賞しましたこと、ありがとうございます。一報を受けました時一瞬驚きました。これも御指導下さいました先生の御蔭と心より感謝申し上げます。

一枚でも多く書き込む事を、頭の隅に置き、書くのですが、思った様には、書けません。部屋から出て来た姿を帰郷していた娘が、見て書けたのと同じです。

東京に帰った娘に受賞のことメール致しました。返信、おめでとう。よかつたね喜んでくれました。私なりに書いてまいります。よろしく御指導下さいませ。

〔評〕

行相互の響き良く、ゆつたりとした明るい雰囲気を持つた作。



準大賞

第二部 井上 鈴子



この度は、思いもかけず準大賞をいただき、大変感謝、感激しております。ありがとうございます。これも偏に、ご指導して下さいました先生はじめ、審査に当たられました諸先生方のお力添え、先輩、書友の皆様方のお蔭と心より厚くお礼申し上げます。

平安かなの美に魅せられ、奥の深さに、試行錯誤しながら、精一杯仕上げたつもりですが、まだまだ未熟です。これからも古筆の臨書を中心に、一層精進を重ね努力して参りたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻賜ります様よろしく願ひ申し上げます。

〔評〕

極めて繊細、且つ速度感の有る優れた細字作品の秀作。



準大賞

第二部 小野田 美晴



この度は、栄えある準大賞を賜りまして誠に有難うございました。これまで温かく熱心にご指導下さいました先生方、くじけそうな時も励まし合ってきた書友の皆さんに心より感謝申し上げます。書の勉強は主に、本阿弥切の臨書と細字での帖作品に取り組んでいます。今回は中字の全懐紙三枚半の作品に挑戦しました。線の強弱と連綿のリズムを曖昧にしないよう留意し、全体に躍動感がでるよう努力しました。これからも古筆の臨書を継続し、更なる精進を重ねる所存です。ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

乱れない行の中に微妙な変化を配し、雅さを演出。



準大賞

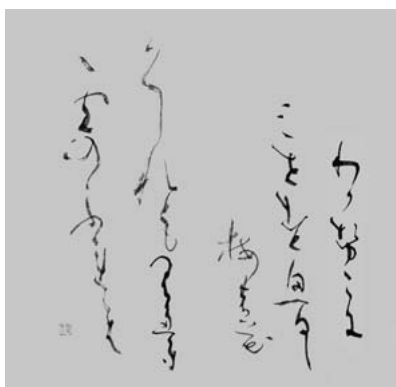
第二部 甲谷 富美子



この度、第六八回中日書道展において、準大賞を受賞させて頂いたいただき、大変光栄に存じます。

〈評〉

方形の空間取りと文字の膨らみ、筆致の離れ際が絶妙。



準大賞

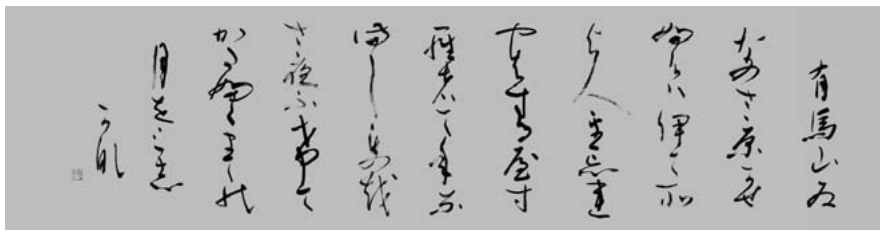
第二部 榎原 令子



この度は、思いがけず準大賞という大きな賞をいただき、誠にありがとうございます。これも偏に日頃より温かくご指導くださる師匠のおかげと厚くお礼申し上げます。また、社中の方々から多くの刺激をいただけることに感謝申し上げます。

〈評〉

書を習い始めてからの月日は長くとも、まだ学ぶ課題の多いことをあらためて感じております。楽しんで書いていた初期の気持ちを思いつつ、伸びやかな線の作品が書けるよう、努力し続けたいと思います。



今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。無理のない筆さばきと穏やかな間合いが醸し出す飄逸さ。

準大賞

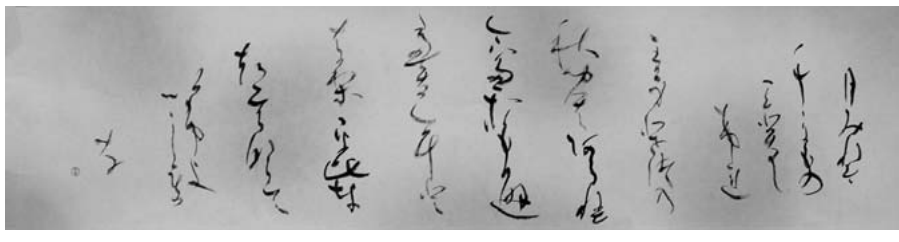
第二部 土屋 香風



この度は、思いがけなく準大賞を賜り、ありがとうございます。これも偏に、長年厳しくも温かくお導き下さいました師匠をはじめ、諸先生方のご厚情によるものと心より厚くお礼申し上げます。

〈評〉

作品はなじみのある小倉百人一首より二首を、自然な流れの中で表現したいと思ひ、字と字の響きあい、筆さばき、墨の濃淡を美しく思ひましたが、心残りのある作品となりました。日頃の勉強不足を痛感するばかりです。

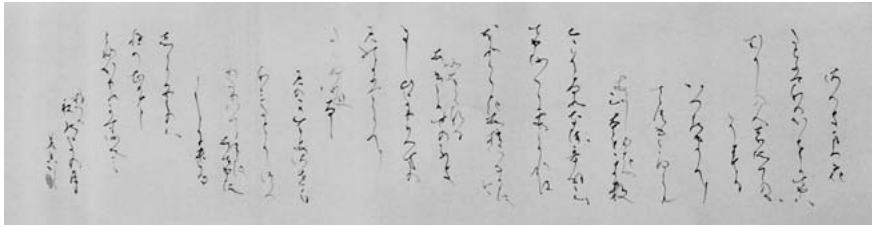


つたない私ですが、今回の受賞を励みに、さらに精進いたしたく存じます。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。振幅がある文字と行の流れにより嫌味の無い纏まり。



準大賞

第二部 若杉美香



この度は、中日書道展準大賞の栄を頂き心より感謝申し上げます。所属します会長先生の個展に於いて斬新な大字作品や品位ある流麗な細字作品の数々に心が震え、より仮名書に魅せられました。その想いを胸に新古今和歌集より六種を古筆の香りが感じられるように試行錯誤を重ねた精一杯の作品です。五歳の時、母に勧めで始めた書を続けてくれるのは、応援してくれる家族のお陰です。これからご縁を頂けた諸先生、お仲間の皆様のご指導を賜りながら、深く遠い仮名書の道を精進して参ります。よろしくお願ひ致します。

〔評〕  
凜とした線質と行間処理、文字の配置が極めて上級。

準大賞

第三部 飯田翠園



この度は、第六十八回中日書道展に於いて、準大賞を賜わり、誠にありがとうございます。ございました。これもひとえに、温かく見守り、ご指導いただきましたました師・諸先生皆様方のお蔭と感謝申し上げます。

今回は、幼少の頃に馴れ親しんだ唱歌を口ずさむように、書作を重ねました。思いがけず頂きました賞を励みに、書に向き合う時間を大切に、精進して参りたく存じます。今後とも、ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕  
思わず口ずさんでしましそうな情趣ある楽しい作品。

準大賞

第三部 加藤芳恵



この度は準大賞を賜り誠にありがとうございます。これも熱心にご指導下さいました師をはじめ社中の皆様と家族の支えがあったお蔭と心より御礼申し上げます。

作品作りで大切な線、筆遣い一つで色々な表現ができる。古典や様々な作品とじっくり向き合っていると、その奥深さに驚かされる。そしてその面白さにも気づく。これから魅力的な線が書けるようにしっかりと学んでいきたい。高校生だった私に声をかけていただき書道の世界を教えてくださいました師にあらためて感謝いたします。

〔評〕  
意志的な強い線は、情熱的で激しく深く伸び、広がりを感じる。

準大賞

第三部 堤光星



この度は、栄えある準大賞をいただき本当にありがとうございます。驚きと喜びでいっぱいです。これも偏に師始め諸先生方、社中の皆様のご指導のお蔭と深く感謝しております。

いつも作品を制作するときに体が硬くなってしまう、気負いすぎて書いていることを指摘されるので今回は気負わず力を抜いて書くことを心がけました。今後はこの賞を励みに感謝の気持ちをお忘れず、さらに努力してもっと「書」の楽しさを味わえるようになりたいと感じております。

〔評〕  
力強く勢いよく書かれ、筆が飛動し明るい作となった。

準大賞

第三部 小川 東歩



この度は、準大賞という身に余る賞を頂き誠にありがとうございました。これも偏に日々、ご指導下さった師匠、先輩、

書友の皆様のお蔭と感謝しております。受賞のお知らせを頂いた時は、驚きで信じられないものでしたが、仲間からのお祝いの言葉を頂いたりする中で漸く実感が湧いて来

たように思います。

今回の作品は、選文はしたものの、一字、一字にとらわれて、「あ…書けない。」の連続でした。

まだまだ、勉強も足りませんが、この受賞を励みに努力をし、これからは少し肩の力を抜き、伸びやかな線が引けるよう精進して参ります。今後共宜しくご指導賜ります様、お願い申し上げます。

〔評〕

ゆつたりとした流れと自然な連筆が安定感のある作となつた。



準大賞

第三部 近藤 暁子



この度は栄えある賞を賜り誠にありがとうございます。戸惑いつつも嬉しさで一杯です。これも長年に

わたりご指導くださった師、先輩方のお蔭と心より感謝申し上げます。美しい文字に憧れ師の下で学んでいます。

準大賞

第三部 近藤 瑤華



この度は準大賞を戴きまして誠にありがとうございました。思いがけない受賞に驚きと身の引き締まる思

いです。これも偏に諸先生方のご指導と社中の皆様のお陰と感謝申し上げます。未熟な私には、墨量、字形、余白など多くの課題があ

りますが、この受賞を励みに精進する所存でございます。今後とも御指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

長鋒をよく心得て、スピード感溢れ明るく飾り気のない素朴さが良い。



準大賞

第三部 中野 寿美



この度は、第六十八回中日書道展におきまして栄えある賞をいただき厚く御礼申し上げます。これも偏に、

熱心に御指導いただきました師をはじめ、諸先輩のご厚情の賜と心より感謝申し上げます。

幼き頃、家族で訪れた聖徳太子生誕の地である橘寺を詠んだ歌を作品にしました。当時目にした情景を思い浮かべ作品制作を始めたものの、思い描くものとは程遠く、力量の無さを痛感しました。

〔評〕

この賞に恥じぬよう一層精進して参りますので、今後とも御指導賜りますようお願い申し上げます。





準大賞

第三部 福岡 優慧



この度は身に余る準大賞を賜りありがとうございました。

これも丁寧な御指導下さいました師匠をはじめ、社中の方々と家族の協力があってのことと感謝申し上げます。

筆の運び方や墨量など作品のどの部分に見せ場を作るかなどアドバイスをもとに考えながら制作しました。

この受賞を励みとし、気に入った線質が出せるように一層精進して参りたいと思います。今後とも御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉  
通貫性豊かに行間美しく、気脈も切れることなく纏め上げた。



準大賞

第四部 泉 好子



この度は、栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございました。

いつも熱心にご指導下さる師匠をはじめ諸先生方、また共に励まし合う書友の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。

日頃作品創りは迷いが多く、言葉の意味や背景そして自分の心を表現できる迄の力量がまだまだ足りず、勉強不足を痛感しております。この度の受賞を機に、より一層努力して参りたいと存じます。

今後とも御指導下さいます様お願ひ申し上げます。審査にあたられました諸先生方には心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

〈評〉  
流れるようなリズムで、強く逞しく心に迫ってくる作。



準大賞

第四部 矢田部 里美



この度は、栄誉ある準大賞を賜り誠に有難うございました。これも偏に、ご指導してくださりました師匠をはじめ、諸先生方、仲間の皆様のお蔭と深く感謝いたしております。

「継続は力なり」という言葉通り、古典の臨書を中心に、練習を積み重ねてきたことが良い結果につながると実感できました。

この受賞を励みに、これからも一層精進し、努力を重ねて参りたいと思っております。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉  
素材にあった筆致で、明るく、透明感のある快作。



準大賞

第五部 稲垣 華扇



この度は栄えある準大賞をいただき、心よりお礼を申し上げます。これも、偏に師匠をはじめ、諸先生方

のご指導のお蔭と感謝しております。

今回の作品は、漢代の篆体を基本に、古朴さと強さを意識した白文印を制作しました。古典の追模に留まらず何か現代の息吹を吹き込めないか、日々模索しておりました。この受賞を励みに更なる精進をして参ります。今後ともご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

〈評〉  
漢印を基に線に含みのある刀痕は渾厚な趣きを醸し出す。



準大賞

第五部 久保伯甫



この度は、第六十八回中日書道展に於きまして栄誉ある準大賞をいただき、身に余る光栄です。誠にあり

がとございました。

職場の先輩に勧められ篆刻を始めて十六年になります。師匠の「古典の作品に立脚した品のある印」という言葉を心に留めて作品作りをしています。印稿には、行き方を見つめなおしたり、人生の指針となったりするような言葉を好んで用いています。

今回の作品「脩己以敬」は、論語憲問編からとりました。敬い慎む心を忘れない人でありたいと思いつつ印を刻しました。

今後、自らの修養に努めてまいります。ご指導を宜しくお願いいたします。

〈評〉

繁簡文字を朱白相間とすることで見事な印面効果を図る。



準大賞

第五部 林 誠哉



定年後伴侶の落款をと思い立ち方寸世界の門を叩いて十年、準大賞受賞の吉報を頂き身に余る光栄と感激

しております。これも偏に社中の先生や諸先輩のご指導のお陰と心から感謝申し上げます。印文の「孫康映雪」は中国晋代孫康が雪明りで杜胤は螢の明かりで読書「螢雪の功」の故事で知られる蒙求の一句。甲骨文字形の面白さに虜になり、指導の先生から何度も添削をいただき推敲を重ねてやっと印影とすることができました。苦学した孫康、車胤には到底及びませんが残された人生この奥深い篆刻に挑戦し今回の受賞を励みに一層精進していきます。

〈評〉

甲骨文を駆使し鋭く大胆な刀法は文字の躍動感を生む。



平成30年度総会・功労者表彰  
第68回中日書道展授賞式  
公益社団法人 中部日本書道会

海部俊樹賞・準大賞（2部～5部）受賞者





中日賞・桜花賞（1部）受賞者



中日賞・桜花賞（2部～5部）受賞者



若年（15歳～21歳）受賞者



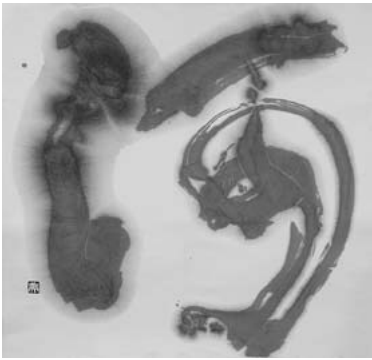
中 日 賞

第一部 中日賞 梶川 美穂子

はるかなる春の風をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき

第三部 中日賞 奥村 順子

春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき



第四部 中日賞 宮島 みどり



第五部 中日賞 平 富耀

第二部 中日賞 上野 明美

春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき

桜 花 賞

第一部 桜花賞 青井 翠風

春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき

第一部 桜花賞 浅野 涛香

春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき

第一部 桜花賞 市橋 文親

春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき

第一部 桜花賞 伊藤 紫鳳

春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき

第一部 桜花賞 今井 由紀

春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき  
 春の草花をよみてはよき春の草花をよみてはよき



第一部 桜花賞 岩田浩泉  
 潮陽太守南遷歸喜見石原唯祝  
 融自言山直動山鬼豈知造物來龍鍾  
 信眉一笑豈乃得神之報汝尔已豐

第一部 桜花賞 上山翠芳

第一部 桜花賞 鶴飼澆  
 無王沁淫經場中者展讀抱見孝子抱場  
 與齊果造像欲財能不以止場共造福刻  
 石辭念橋匠師全掌和開池僅監三口

第一部 桜花賞 白井紅蓮

第一部 桜花賞 内田晃州  
 月得世過陳山身隨獅心而開袖身抄白森州邊入  
 五平五聖懷願下平久索燕庭日版下何時敢一龍安之  
 腹兜懷安於茶性月勢愁傷少向此即山下行鐵林雲窗  
 映相迎心尤唯致收盡五人聚聚他不堪足

第一部 桜花賞 鏡留奈

第一部 桜花賞 川端柳園  
 池草二葉影多美映照而解了此花能解念深  
 洋自多歸下紫衣狂象應酒淡橋綠洲  
 東園白海伴有約修竹時聲會活眼日柳園

第一部 桜花賞 鏡留奈

第一部 桜花賞 河村紫夙  
 一便女身... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 大澤雅舟

第一部 桜花賞 大澤雅舟  
 浩乎如過產沛風而不知其所如祖乎如遺世獨立羽化而登  
 傑於是飲酒樂甚和雅而歌之歌曰桂梓芳蘭翠翠空明兮  
 沂流光渺兮余懷望美人兮天一方客有吹洞簫者倚歌而和  
 之其聲嗚嗚然如怨如慕如泣如訴餘音翳不絕如舞舞幽出

第一部 桜花賞 大西影慕  
 梅... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 大原祥瑤

第一部 桜花賞 海田幸導  
 更兩長新... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 鏡留奈

第一部 桜花賞 川端柳園  
 池草二葉影多美映照而解了此花能解念深  
 洋自多歸下紫衣狂象應酒淡橋綠洲  
 東園白海伴有約修竹時聲會活眼日柳園

第一部 桜花賞 鏡留奈

第一部 桜花賞 河村紫夙  
 一便女身... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 大原祥瑤

第一部 桜花賞 海田幸導  
 更兩長新... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 河村紫夙

第一部 桜花賞 河村紫夙  
 一便女身... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 倉田果苑  
 錦山獨歸... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 黑瀬桃苑

第一部 桜花賞 鄉瑤春  
 其變向落... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 小林雅子

第一部 桜花賞 篠原久祥  
 曉... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 篠原久祥

第一部 桜花賞 小林雅子  
 曉... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 篠原久祥

第一部 桜花賞 關翠虹  
 前... (Calligraphy)

第一部 桜花賞 關翠虹

第一部 桜花賞 關翠虹  
 前... (Calligraphy)







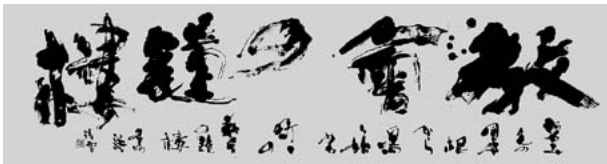




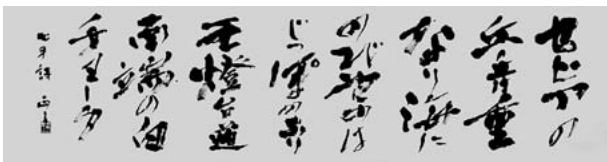
第三部 桜花賞 川西 悠華



第三部 桜花賞 小寫 芝香



第三部 桜花賞 塚原 清雪



第三部 桜花賞 平林 正子



第三部 桜花賞 舟戸 海鷗



第三部 桜花賞 田中 葉摘



第三部 桜花賞 河合 美玲



第三部 桜花賞 岡島 淡雪



第三部 桜花賞 平田 光蘭



第三部 桜花賞 橋本 佳泉



第三部 桜花賞 辻裏 友視



第五部 桜花賞 加藤 静雲



第五部 桜花賞 井上 貴文



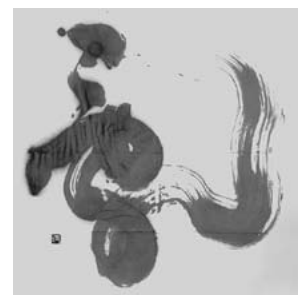
第四部 桜花賞 奥村 郁子



第五部 桜花賞 徳倉 禾風



第五部 桜花賞 齊藤 昌平



第四部 桜花賞 吉兼 理樹



# 中日賞・桜花賞作品評

## 第一部（漢字）

工藤 俊朴  
川崎 尚麗 評

### 〈中日賞〉

○梶川美穂子

軽妙ながら強い線。時折ある文字の中の空間が巧妙な秀作。

○青井 翠風

一行目上方の「白」を、下方を小さく引き締め成功した作。

○浅野 清香

全体の一貫性と纏まりに妙ある作。

○東 春翠

墨量十分。それにより与える威圧感は、見る者を圧倒する。

○市橋 文親

全体にゆったりとしたおおらかさ溢れる作。癒される。

○伊藤 紫鳳

丸味ある曲線がゆったり感を醸し出している。落款良。

○今井 由紀

十分な墨量で重量感あり。横に通った「白」が綺麗。

○岩田 浩泉

切れ味鋭く、横画の放り投げる様な筆法が全体の明る

さを生む。

○上山 翠芳

さっぱりした素直な書きぶりに感銘。時折の墨の溜りが生きた作。

○鶴飼 澤

線の鋭さ申し分なし。時折の大きい字が全体のスケールを作る。

○臼井 紅運

起筆の押えそのままにグイグイ迷いなし。纏まり、墨量よし。

○内田 晃州

木簡調の隷書体。下方の右払いの数々が全体を引き締めた。

○大澤 雅舟

単体作品ながら、全体の流れを失することなく纏めた。

○大西 影慕

大きい回転線の生きた作。下方を小さくし全体を引き締めた。

○大原 祥瑤

曲線性を内包する隷書。各文字内空間の一定さが、ゆったり感を生む。

○海田 幸導

墨量たっぷり。迫力十分な佳作。

○鏡 留奈

横縞の白綺麗。画数の少ない字が生む余白も明るさを生んだ。

○川端 柳園

書き出しの墨の溜り良。中央上部の「帰」が生命線。

○河村 紫嵐

線細く厳しい。構成も抜群。二行目の撓みと落款のバランスグッド。

○倉田 果苑

コツコツと素直。各文字の中の細い線が全体の成功を導いた。

○黒瀬 桃苑

墨量十分、連綿も冴えた。三、四行目上方のカスレが全体を生かした。

○郷 瑤春

ゆったり感十分。落ち着いた雰囲気。各文字の中の白も綺麗。

○小林 雅子

墨色の変化もすばらしい秀作。

○篠原 久祥

針のような細い線。動きの大きさと出ると更に向上の予感。

○関 翠虹

線質、字形の変化、それに伴う余白の妙、どれを取っても優れた秀作。

○田上 松苑

墨痕鮮やか、形姿よく迫力

の横溢した作。

○寺田 美翠

三行構成、さわやかな風韻をもった作。

○藤堂 弘風

疎密強弱のところを得て爽涼感のある作とした。

○仲川 馨月

潤濁・振幅に富み表情ゆたかな作。

○中島 静鈴

墨色豊かな三行構成。流動美にも優れた作。

○中山 芳泉

造形豊か、作品制作の意図が素直に反映された格調高い作。

○野田 紫鳳

確かな結構と筆線、疎密、行相互の響きよく構成美のある作。

○野呂 隆視

骨気ゆたか、気迫と躍動感に満ちた横溢した作。

○迫間 祥軒

流れよく、文字の大小疎密、余白を生かした豊潤な作。

○馬場 紅雲

行間よく、古意の体得と今日の感覚との調和に優れた作。

○浜島 緑風

秀麗、かつ生々とした爽快でスッキリとした作。

○藤井 麗月

墨痕鮮やか、迫力に富む優れた作。

○堀 美洲

筆線鮮やか。凛とした響きのある清澄な調べに魅せられる作。

○本田 吉華

点画の隅にまで力が及んだ安定感のある作。余白も息づいている。

○三宅 夕麗

行と行相互の関連良く、調和のとれた清涼感のある練度の高い作。

○村田 華雪

潤濁、線の強弱、変化のある卓抜な筆力を持った作。

○守永 藍麗

古典を踏まえた秀潤な筆致、構成よく品位に富む作品。

○安田 彩霞

豊潤な墨量と冴えた筆線、安定感と品位に富む作。

○山口 如泉

遅速緩急あり、空間の処理が巧み、力感と流動美の溢れた作。

○山本 祥仙

ふくよかな筆線とさわやかな構成の妙。品位にも富む。

○吉川 桃華

遅速兼備、穏やかな表情と造形美にすぐれた作。

○吉田 蘭生

気韻生動、流れ良く、行間の処理に冴えをみる。

○脇田 玉波

自在にはたらく洗練された筆線。安定した造形美が感じられた明るい作。

○渡壁 清香

墨痕鮮やか。構成美に優れ、気品ある作。

○渡邊 香蘭

構成にすぐれ、覇気の横溢した作。

○渡辺 美翠

意在筆線、的確な表現力と、生気にあふれた作。

第二部 (かな) 馬場 紀行評

〈中日賞〉

○上野 明美

墨の潤渇による遠近と行の流れ、紙面構成が素晴らしい。

〈桜花賞〉

○加藤 光月

山並みの景色を想起させる細字仮名の雅さが窺える。

○加藤 こづみ

渴筆の始筆と大胆な余白、行の流れが心地良い逸品。

○神谷 まつお

漢字の用い方が程良いアクセントとなり全体を纏めた。

○鈴木 姫泉

中央に中字を、左右に細字を配しシンメトリーを演出。

○西脇 聖園

墨料の変化と行の疎密が趣のある中字の妙を見せた。

○松田 典子

古筆臨書の確かな下地が窺える流麗な細字の逸品。

○森 則子

主たる行の流れを三行目に配し、四行の構成を纏めた。

○和田美智子

連綿線が行を立ち上げ、行間の微妙な響き合いが程良い。

第三部 (近代詩文) 大島 緑水評

〈中日賞〉

○奥村 順子

大胆さと繊細さを併せ持ち、暢びのある線が余白を凛と輝かせた。

〈桜花賞〉

○岡島 淡雪

潤渇をうまく生かした立体感のあるリズム感溢れる作品。

○河合 美玲

長鋒から醸し出される明るく爽やかで清らかな情味を感じる。

○川西 悠華

柔らかく筆先の利いた線が気脈も切れることなく纏め上げた。

○小宮 芝香

軽快なリズムに乗り墨継ぎも自然、詩情をよく表現した作。

○田中 菜摘

軽やかにして伸び伸びと筆運び余白を充分生かした安定感のある作。

○塚原 清雪

大胆な構成が斬新で魅力的。大字と小字がうまく調和している。

○辻裏 友規

重厚な文字群が紙面を圧倒する。潤渇の演出が見事。

○橋本 佳泉

超長鋒を良く駆使してスピード感溢れ、細字も流れがある。

○平田 光蘭

表情の楽しさが作品に軟らかなリズムを奏で立体感あり。

○平林 正子

粘りのある線は自然に流れ、気脈も切れることなく纏め上げた。

○舟戸 海鷗

温和な表情が線にも造型にも見られ、余白が広く明るい作。

第四部 (少字数) 波切 童州評

〈中日賞〉

○宮島 みどり

大河を流れるような、気宇壮大な作、終筆は見事に上げた。

〈桜花賞〉

○奥村 郁子

奇を衒わず篤実な作で、沈着して豊潤な香が漂う。

○吉兼 理樹

無垢、清冽な作。墨色にも助けられ空間が美しい。

第五部 篆刻刻字 岡野 楠亭評

〈中日賞〉

○平 富耀

金文を用い洗練された技法で格調高い作風を樹立する。

〈桜花賞〉

○井上 貴文

線に古びた深い情趣を留め巧みな文字の疎密構成が光る。

○加藤 静雲

筆意を前面に押し出し曲と直との自然な融合の妙味。

○齊藤 昌平

古鉢印の朴訥とした味わいがあり自由な気象が漲る。

○徳倉 禾風

飾り気のない点画の処理は尽きぬ趣きを宿している。



関根玉振委員長挨拶



その他の入賞者

長尾	田仲	祖父	笹本	栗山	川本	神谷	加藤	加藤	片山	納村	萩野	大西	大谷	大石	浦野	岩田	今井	伊藤	市川	特選	吉津	羽多	中山	高久	後藤	熊田	片岡	秋田	推薦	第一部(漢字)	夏美	木蘭	木蘭	夏美	大内秋蘭	浩然	管	管																																																			
秀麗	美結	江虹	菜月	博美	青枝	好泉	北辰	眉翠	二葉	翠玉	道世	和枝	蕙苑	紅妍	由衣	有里	大地	稚子	香雪	吉津希代香	劉	春景	春華	絃華	菜花	翠庭	木蘭	夏美	大河内秋蘭	管	管	管	管	管	管	管																																																					
中西	鳥井	高島	佐橋	畔柳	木村	粥川	上村	加藤	加藤	片岡	奧村	岡本	大津	大石	遠渡	鶴飼	岩田	稲垣	伊藤	準特選	松尾	西村	中村	佐藤	小酒	小酒	小酒	大内	大河内	管	管	管	管	管	管	管	管	管	管																																																		
仲江	薰	仲晃	爽翠	知子	香代子	緋音	有記	文子	千溪	蘭泉	美子	翠溪	翠影	窓雪	季音	玲舟	月扇	輝彩	舒榮	芳村	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	早川	濱地	服部	中村	中野	早川	濱地	服部	中村	中野	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂																																
大野	大嶽	大島	内山	宇佐	上杉	稻吉	伊藤	伊藤	石崎	石川	伊神	阿部	青山	東	吉原	吉永	山本	山田	山田	吉原	吉永	山本	山田	山田	安田	三宅	水野	松原	樋口	林	早川	濱地	服部	中村	中野	瑞琴	桃紅	明美	双劍	美咲	恭子	由琳	麗雅	巨輝	玉秀	香乃	水麗	周作	幽翠	華谿	花翠	香尋	香尋	瑞琴	桃紅	明美	双劍	美咲	恭子	由琳	麗雅	巨輝	玉秀	香乃	水麗	周作	幽翠	華谿	花翠	香尋	香尋	瑞琴	桃紅	明美	双劍	美咲	恭子	由琳	麗雅	巨輝	玉秀	香乃	水麗	周作	幽翠	華谿	花翠	香尋	香尋
萩野	信安	布川	西山	西垣	長野	長坂	長坂	内藤	辻川	田中	武内	高木	鈴木	鈴木	杉山	正徳	清水	塩澤	佐野	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂													
智司	青嶺	千鶴	美翔	玉翠	輝泉	結衣	竹華	蒼月	祥花	惠媛	利憲	悠花	游璃	洋子	鶴子	李泉	美苑	伶華	清華	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂													
長谷川	野村	能見	丹羽	西山	成瀬	中根	長坂	中川	坪井	棚橋	田崎	高田	鈴木	鈴木	杉山	白井	清水	澁谷	澤田	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂													
岩田	岩下	今西	伊藤	磯貝	石塚	石木	池田	在藤	荒井	秋田	若松	山田	山下	森島	森	村瀨	村上	源口	三沢	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂													
翠萌	東翠	香溪	鴻仁	文野	碧雲	映彩	里奈	花昌	游舟	清芳	若松	山田	山下	森島	森	村瀨	村上	源口	三沢	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂	瑞花	憐花	清苑	香映	香雨	由香	真如	華苑	茉莉	敬子	純子	佐和	沙耶	恭子	文彩	彩嶺	萌々	鸞邑	海堂													



一科 (1部) 当番審査員

梅村 香苑  
太田 素月  
小笠原澄遠  
奥野 鶴扇  
奥村 陽鶴  
小田 淳子  
笈 多恵子  
片桐 清風  
加藤 芳枝  
加藤 生子  
加藤 嶺花  
神谷 早紀  
河合 晃城  
川瀬 実咲  
川村 有紀奈  
木下 恵香

大岡 祥園  
大谷 梅里  
小川 徳子  
奥村 翠想  
尾崎 涼舟  
各務 香扇  
粕谷 芳翠  
片野 秀城  
加藤 研真  
加藤 里菜  
壁谷 由美  
狩生 芳泉  
川合 碩山  
川添 陽泉  
岸本 紫翠  
櫛田 恵翠

倉橋 澄雨  
黒木 奈美  
河和 節子  
小嶋 美秀  
小嶋 鶴嬰  
近藤 明彦  
酒向美恵子  
佐藤 青葩  
佐藤 麗香  
佐藤 竹苑  
佐藤 紫栄  
佐藤 汀翠  
小林 修堂  
後藤 智明  
小嶋 玉寶  
桑山 紫香  
栗田 梢光

大門 雅泉  
関戸 華月  
鈴木 祥翠  
杉田 樹石  
菅野 茜  
菅野 怜玉  
柴田 春月  
穴戸 暢光  
佐藤 青葩  
志知 麗香  
清水 隆道  
清浦 裕子  
杉浦 秀水  
鈴木 花郎  
鈴木 晶行  
世古 瑠菜  
高木 紅絲



伊藤仙游審査部長挨拶

高津 径花  
滝川 祥苑  
竹内 翠芳  
竹内 美峰  
坪井万里子  
鶴見 常風  
寺尾 竹豊  
東海 眉虹  
遠山 正幸  
永井 城圭  
中島 清秀  
中島 清錦  
中富彩奈恵  
長畑 清楓  
夏目 美沙  
新津 美泉  
野中 利恵  
長谷川鳳声  
羽田野雅扇  
服部 久敬  
服部 志翠  
花井 志翠  
花井 寛城  
花場 桜華  
馬場 桜華  
早川 林花  
林 佳穂  
林 翠波  
林 翠波  
速水 香余  
坂野みゆき  
平岩 梨奈  
平野 渓雲  
藤原 芳龍  
藤原 隆峰  
舟橋 博崇  
古川 紀風  
古川 紀風  
堀井 翠月  
堀井 翠月  
前野 秋豊  
前野 秋豊  
松浦 早苗  
真野 華翠  
右高 華翠  
水谷 君代  
三輪 君代  
村上 紫江

高橋 素花  
竹内 重則  
竹浦 榮翠  
谷川 花影  
鶴見 香翠  
鶴見 蒼雲  
寺島 明子  
遠山 翔雅  
内藤 陽翠  
中島 昭川  
中島 昭川  
永田 光舟  
中西 瑤花  
中村 紅苑  
成田 紅翠  
新村 成草  
袴田 泉穂  
畑中 泉山  
服部 和子  
服部 和子  
服部 緑珠  
花井 里苑  
花山 資子  
濱島 桃風  
林 映洲  
林 翠竹  
速水 香余  
坂野みゆき  
平岩 梨奈  
平野 渓雲  
藤原 芳龍  
藤原 隆峰  
舟橋 博崇  
古川 紀風  
古川 紀風  
堀井 翠月  
堀井 翠月  
前野 秋豊  
前野 秋豊  
松浦 早苗  
真野 華翠  
右高 華翠  
水谷 君代  
三輪 君代  
村上 紫江

准特選  
青山 千峯  
宇都野美代子  
大野 紀子  
奥村 桂月  
金倉あゆみ  
佐合 智美  
田中 かのる  
西尾 雅子  
伴 幸子  
平林津賀子  
水野 葉子  
安井 恵  
横井多恵子

秀逸  
縣 欣司  
安藤 香波  
石川 直美  
犬飼 美晴

特選  
伊藤 英美  
稲吉小夜子  
川本 俊子  
畔柳 佳奈  
幅 早苗  
鷺野 嘉子

推薦  
安藤 美恵  
柴田 道子

第二部 (かな)  
川本 泉

渡辺 敬月  
渡辺 敬月  
渡辺 あさき  
渡辺 紗里  
山田 孝子  
山田 翠波  
山田 青風  
山田 清華  
山口 雪華  
梁川 美舟  
矢島 汐風  
森川 嶺翠  
森川 嶺翠  
森岡 英子  
村松 裕子  
村松 裕子  
森井 嶺月  
森井 嶺月  
森岡 英子  
森岡 英子



一科 (2部~5部) 当番審査員





1部審査風景

第三部 (近代詩文)

- |       |      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |        |       |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 横井 吟虹 | 御崎 勲 | 川澄 良子 | 成田 真衣 | 余吾友理恵 | 三浦 節子 | 堀川 洋子 | 林 澄江  | 野尻 紀子 | 鈴木由木江 | 杉山 恵子 | 杉浦 幸子 | 柴田 恵子 | 近藤 嘉江  | 加藤 浩子 |
|       |      |       |       |       | 若林いずみ | 三浦 昭子 | 古橋 里子 | 長谷川美舟 | 中田 明美 | 鈴木 圭子 | 杉野 鈴江 | 菅原 瑞景 | 柴田 恵美子 | 木本美智子 |
| 伊 莉   | 安 保  | 松 浦   | 福 島   | 鳥 居   | 滝 川   | 下 村   | 近 藤   | 久 世   | 梶 田   | 奥 山   | 伊 藤   | 石 川   | 浅 井    | 特 選   |
| 恭 子   | 育 子  | 楊 燕   | 彩 子   | 壯 瑠   | 帆 南   | 佳 風   | 星 蘭   | たか子   | 汀 雨   | 由 紀   | 正 治   | 桃 露   | 尚 風    |       |
| 石 田   | 天 谷  | 松 井   | 林     | 田 島   | 高 橋   | 佐 藤   | 小 島   | 加 藤   | 貝 沼   | 岡     | 井 出   | 安 藤   | 絹 子    |       |
| 恵 巳   | 結 花  | 雲 海   | 春 香   | 唯     | 麗 水   | 悠 佑   | 徹     | 敦 美   | 修 子   | 俊 子   | 翠 風   |       |        |       |

準特選

- |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 伊 莉 | 安 保 | 松 浦 | 福 島 | 鳥 居 | 滝 川 | 下 村 | 近 藤 | 久 世 | 梶 田 | 奥 山 | 伊 藤 | 石 川 | 浅 井 | 特 選 |
| 恭 子 | 育 子 | 楊 燕 | 彩 子 | 壯 瑠 | 帆 南 | 佳 風 | 星 蘭 | たか子 | 汀 雨 | 由 紀 | 正 治 | 桃 露 | 尚 風 |     |
| 石 田 | 天 谷 | 松 井 | 林   | 田 島 | 高 橋 | 佐 藤 | 小 島 | 加 藤 | 貝 沼 | 岡   | 井 出 | 安 藤 | 絹 子 |     |
| 恵 巳 | 結 花 | 雲 海 | 春 香 | 唯   | 麗 水 | 悠 佑 | 徹   | 敦 美 | 修 子 | 俊 子 | 翠 風 |     |     |     |

秀逸

- |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |     |     |     |     |     |     |     |     |      |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| 鶴 口 | 谷 川 | 高 木 | 鈴 木 | 澤 木 | 小 藤 | 河 野 | 木 野 | 川 瀬 | 糟 谷 | 小 川 | 太 田 | 伊 藤 | 伊 藤 | 安 藤  | 浅 野 | 若 山 | 守 山 | 松 原 | 福 川 | 原 野 | 西 川 | 永 井 | 土 井 | 寺 尾 | 武 市 | 柴 田   | 佐 藤 | 笹 井 | 近 藤 | 古 賀 | 神 谷 | 加 藤 | 梶 田 | 小 野 | 岡 本  | 大 島 | 岩 土 | 伊 藤 |
| 夏 菜 | 鵬 竹 | 夏 楠 | 桃 玲 | 雅 人 | 芳 園 | 京 子 | 陽 光 | 裕 美 | 永 子 | 恵 秀 | 紫 紅 | 雛 子 | たつゑ | 早 百合 | 裕 香 | 思 鵬 | 乃 芽 | 教 雄 | 翠   | 佳 子 | 万 央 | 睡 蓮 | 秀 栖 | 青 波 | 佳 峰 | 瑞 香   | 健 斗 | 榮 春 | 芳 玉 | 秀 花 | 由 記 | 夕 貴 | 友 香 | 裕 鼎 | 太郎   | 彩 花 | 蘭 香 |     |
| 寺 澤 | 坪 山 | 竹 内 | 高 井 | 鈴 木 | 近 藤 | 後 藤 | 熊 谷 | 川 田 | 河 内 | 小 川 | 岡 村 | 伊 吹 | 伊 藤 | 市 川  | 浅 本 | 若 杉 | 美 馬 | 古 田 | 広 瀬 | 野 瀬 | 中 川 | 内 藤 | 寺 澤 | 田 中 | 田 口 | 柴 田   | 佐 藤 | 酒 井 | 小 林 | 城 殿 | 神 村 | 片 岡 | 梶 田 | 小 川 | 大 谷  | 大 倉 | 岩 崎 |     |
| 明 珠 | 香 泉 | 敏 夫 | 舞 衣 | 華 步 | 秀 光 | 真 理 | 涉   | 敏 美 | 裕 泉 | 裕 子 | 延 子 | 紅 鳳 | 遥   | 兼 正  | 瞳   | 怜 華 | 裕 美 | 輝 美 | 光 輝 | 裕 翠 | 莉 枝 | 赫 子 | 茂 子 | 夕 穂 | ゆかり | 登 志 枝 | 朱 美 | 彩 加 | 青 華 | 天 祐 | 啓 江 | 桂 苑 | 汐 里 | 順 子 | 小 百合 | 啓 風 | 由 美 |     |

第四部 (少字数)

- |       |     |     |       |     |     |     |     |     |       |     |     |       |       |       |     |     |       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 加 藤   | 内 田 | 青 木 | 榎 本   | 推 薦 | 日 高 | 永 江 | 鈴 木 | 小 泉 | 板 倉   | 安 達 | 秀 逸 | 山 本   | 林     | 中 橋   | 石 原 | 新 井 | 横 井   | 柴 田 | 加 藤 | 石 原 | 推 薦 | 吉 田 | 山 中 | 山 崎 | 松 井 | 古 田 | 深 見 | 彦 坂 | 原 田 | 中 谷 | 寺 西 |
| 清 城   | 明 男 | 和 馨 | 翠 峰   |     | 節 代 | 佳 子 | 千 晴 | 路 子 | 虹 華   | 鷹   | 種 子 | 加 奈 子 | 美 恵 子 | 千 砂 子 | 葉 子 | 珪 風 | 真 由 美 | 珪 風 | 宗 久 |     | 星 舟 | 茜 湖 | 好 輝 | 白 雲 | 香 澄 | 寿 子 | 房 代 | 耀 山 | 愛 音 | 恒 流 |     |
| 清 井   | 太 田 | 今 井 | 禰 宜   | 刻 字 | 花 井 | 柘 植 | 佐 野 | 蟹 江 | 磯 貝   | 米 田 | 藤 村 | 永 見   | 川 本   | 池 野   | 等   | 綾 雪 |       |     |     |     | 千 紘 | 横 井 | 山 田 | 村 松 | 堀 部 | 福 應 | 平 田 | 樋 口 | 林   | 戸 谷 |     |
| 富 比 古 | 柳 一 | 德 弥 | 田 景 子 |     | 紅 霞 | 和 代 | 叶 子 | 紅 水 | み 之 子 | 清 翠 | 美 穂 | 沙 香   | 由 紀   | 登 世   |     |     |       |     |     |     | 琴 泉 | 玉 蓉 | 泰 然 | 華 舟 | 節 子 | 明 風 | 直 美 | 紅 甫 | 典 代 |     |     |



二科 (1部) 当番審査員

二科

第一部(漢字)

二科賞

住山真奈美	鈴木影花	島崎梨沙	佐藤寿真	酒井雛	栗山万嬉	川辺舟楫	上手菜々美	加藤亜実	奥野葉月	太田美楓	梅溪紅苑	秋田由希恵
田口昂麗	鈴木葵峰	鈴木愛果	志岐拓海	佐藤惠順	小林羅文	栗本清芳	川原陽苑	加藤瑞香	小原春玲	岡本清風	大倉萌香	井上恒雄

秀逸

渡邊紗智子	村瀬上氏	花井麦雲	永田乾石	篠田仰信	榊原有光	加藤忠之	長田正嗣	磯村育治	青木涼虹	柳原雅龍	宮部政代美	羽柴裕子	富永晴美	佐藤敬頭	子安一徳	小林有希	工藤芳悦	伊藤清一	鈴木悠里
山田貴子	増井茂	中野麦愛	鈴木眞壽	佐々木清香	神山彩華	小原義直	今村禎郎	石原久義	山村千秋	室静代	前田龍泉	西岡貴美子	高井玉扇	榊原悠園	小松象神	小池清子	榎並勝彦	林田かほる	

準特選

奨励賞

大橋田巳生	大嶽里沙	太田荀媼	大迫寿星	大鐘早紀	江崎美樹	梅村香園	宇野誠心	臼杵浩秀	上田陵花	岩田玲水	岩田祥風	井本千游	今井彩寧	井上微風	犬飼紫華	伊藤広樹	伊藤華水	市野春翠	市川映舟	石原美佐江	石黒真泉	石川涼雨	池邊美杜	飯田紫泉	飯塚健介	安福展翠	阿部葉子	浅野映華	青木萌夏	横井霞光	満園希杏	松本萌伶	藤戸祐成	野口純伽	名倉芳美	永井江堂	田中くるみ	竹内青淵	
大村知郁	大場早苗	大高理沙	大澤浩子	大草有優	種田圭鳳	江口太郎	馬場春蘭	宇野朱音	上野里姿	岩本麗泉	岩田星彩	岩崎竹影	今井千寿	井上美雪	井上亞耶	伊藤祥子	伊藤杏樹	市川翠華	居初江陵	石橋茉悠	石黒佳洲	石川朱里	池阪圭月	飯田華翠	安福文香	荒井秋芳	安達寿扇	浅井孝行	吉尾綾華	山崎一慶	三井恵子	堀井美里	野村小鏡	西川愛美	中野良嗣	田中大翔	竹村英恵		
館鈴水	武田梨杏	高原舞弓	高橋美春	高須紅竹	祖父江彩花	瀬崎翠游	須藤泰薫	鈴木聡志	鈴木静香	鈴木うらら	杉山瑤華	杉山和優	杉浦朱音	島田春海	芝優里花	重野高棲	佐野麻衣	里中紅華	櫻井風花	阪上珠基	後藤京花	小雀楓華	小木曾美空	河野公美	久保園泰仙	楠森玄峰	木村有理	木村香葉	木下絵里加	河村雪花	川瀬佑月	神谷克枝	金森紫水	加藤夢捺	加藤愛果	梶原麻世	小川香風		
田中かりん	只野葉留華	高森良鶯	高橋未歩	高橋桃子	大道優大	蘭井優大	鷺見彩笑子	鈴木望	鈴木静香	鈴木うらら	関師舞子	杉山壽万子	杉浦とし子	社本真依	柴田智美	篠田佳那	佐橋南美	里中紅華	櫻井風花	阪上珠基	蔡忠義	樹神里佳	小塚美枝	幸村玉雲	小井土裕子	國枝倩倩	斬倩倩	木村有里	木全春乃	喜多村秋香	河田里菜	河合恵萌	金子浩子	門松瞳	加藤優帆	加藤松園	笠松紫芳	小木曾実香	
松元昭美	松波輝美	松尾萌	前川杏樹	堀内杏華	堀柳柳	細川柳柳	細江静里奈	舟橋風苑	藤野真子	藤田琴乃	福島真弓	廣部快風	平子綾音	日高綺音	日置啓雲	林里奈	早崎唯	濱島明翠	馬場紅亜	服部紫翠	服部真吉	丹羽碧洋	成田朋真	中村智恵子	中村彩花	長野綾音	中島悠稀	中川由佳	中川香舟	鳥居清景	外山優奈	戸上真琴	寺田雅彦	鶴見珀翠	辻映翠	辻村利佳	津坂紗希	谷口夏鈴	田中清山
間野貴文	松原信子	松下東邱	間瀬桂峰	本庄聡子	堀美芳	堀智絵	細川優典	舟橋明子	藤原恒成	藤田孝雲	深谷由季	廣野陽風	日比野未実	日置康苑	原渚紗	林慶将	濱野和江	濱口真里奈	羽場美咲	服部泰斗	畑佐順子	野田真梨華	蜷川あずさ	鍋田珠子	中村恭香	長野秋蘭	中島華楓	中島汀葉	中川春光	永井玲苑	鳥居穂月	富田美翠	樋田美翠	寺尾美翠	辻村利佳	津坂紗希	谷口夏鈴	田中清山	



二科 (2部~5部) 当番審査員





2部審査風景



3部審査風景

依田夏実	吉田節子	吉川珠翠	横山藍里	山本康貴	山田睦己	山田一華	山口翠瑩	山内久江	柳田あさみ	森本晴泉	村田安菜	村瀬徑秀	宮地八千代	溝口実祐	水野百花	水谷文江	参川憲昭
若林碧雲	吉田佑	吉田恵美子	横山香華	万木桃風	山室由美子	山田竹聲	山崎聖命	山内萌歌	山内清華	安永澄代	森菜々子	村瀬碧陽	三輪翠陵	緑川香玉	溝口千柊	水野真宏	水谷香乃里
<b>佳作</b>																	
牛田光星	宇佐美清雅	上田清楓	岩田純子	今村美咲	稲垣耀秀	一ノ瀬花奈	出原香蘭	石川優奈	石川山翠	石川榮利子	安福優伽	芦田花織	秋元花雲	渡辺菜月	分部幸紀	若松佳奈	
内海秀香	宇佐見泰山	鶴飼水影	岩月清曉	岩下風花	稲山沙耶	伊藤紫眺	板倉灯里	石原葵	石川秀山	石川畀山	石井夏楓	天野清月	秋山千鶴子	渡會恵一	若山芝春		
五藤栖蘭	黒澤百合加	久野七虹	木村秋波	木里豪志	河辺晴菜	唐橋蘭月	加藤吟香	奥山八重子	小河佳風	岡部友貴	小笠原唯	小笠原温孝	大林靖奈	大橋茉緒	大野さなえ	大澤美桜	榎本真巳
後藤千秋	河野大樹	窪田有桜	木村友星	絹川恵子	神田真珠	川上宥汰	加藤乃得	柏原洋飛	沖野希美	小川敦子	小笠原夢歩	小笠原寧秀	岡崎真理	大林霞風	大橋明日香	大島勉	大越美百合

林花恋	早川螢雪	八田節子	橋部天音	萩野早耶香	野々川翠扇	野田霞月	野口花風	丹羽紅翠	西尾松子	中野和陽	長瀬輝雪	中井翔園	豊留美咲	戸本好美	藤松浩視	玉置奈緒子	種子島瑞季	田中美景	田中紫芳	多田汀優	武田佳風	竹内悟堂	武井こむぎ	瀧光榮	瀨古成美	須藤翔鳳	杉山由華	杉本和代	杉浦直照	新保柳穂	清水雅子	柴田律子	篠田めい	佐々木花抱	作内星江	近藤香月	近藤鸞雅	小西萩花	
林律翠	早川怜志	馬場桃連	長谷川清風	土師歌恋	野村香月	野々垣悠	野口佳泉	丹羽白桜	西垣琴翠	成田恵翠	中出和子	中川昶爽	鳥井愛美	豊田霞汀	富田光風	手塚靖乃	田原清明	谷岡千信	田中大翔	田中麻美	田代ひとみ	武内太志	武市幸恵	瀧波照白	高木琴巴	関巴菜	須田美翠	鈴木佐和子	杉本錦楊	杉藤未怜	菅楊	社本花奈	清水紀早	芝田芳茜	佐野陽華	酒向星恵	坂元恵	近藤和子	小林伶奈

<b>奨励賞</b>		<b>二科賞</b>		<b>第二部 (かな)</b>		<b>佳作</b>	
浅井喜代子	馬場景子	中紀代子	加藤孝子	渡辺静扇	渡辺香扇	吉原みず穂	吉澤悠斗
東美千代	森真由美	中川卓也	鈴木和子	渡辺康子	渡辺照花	吉田多映	吉川佳子
杉村友香	古家野弥生	加藤美代志	稲川京花	山口和子	山口裕子	村上史子	平田賢子
鈴木和代	佐藤月菜	神谷歩夢	伊藤美紅	渡辺文女	山田文女	安井芹奈	水野加寿代

<b>二科賞</b>		<b>第三部 (近代詩文)</b>		<b>佳作</b>		<b>佳作</b>	
伊藤歌秀	伊藤美紅	飯田楽舟	阿部真由子	池田宮子	乾乃武子	岩嶋はな乃	石原亜純
大谷和子	伊藤美紅	大河内千晴	伊藤紀子	岩内すみれ	岩内すみれ	岩嶋はな乃	石原亜純
神谷和子	伊藤美紅	岡田洋美	伊藤紀子	岩内すみれ	岩内すみれ	岩嶋はな乃	石原亜純
佐藤月菜	伊藤美紅	川口和子	伊藤紀子	岩内すみれ	岩内すみれ	岩嶋はな乃	石原亜純

奨励賞

加藤 美香	片山 沙弥	小田 美祥	小鹿 怜菜	岡村 仁清	大橋 紅邨	今橋 由利	井原美奈子	伊藤ゆいな	磯貝美智子	石川 結葉	安藤 秀苑	難波 希静	横江 星花	田口 莉奈
蟹江 和江	加藤 千秋	甲斐野美津枝	尾関 賀妙	小澤亜由美	大久 瑞生	大谷 蘭榮	今橋 久子	稲垣 綾	伊藤 美文	石川裕里加	安藤 昭亭	若菜 翠月	古川 智貴	中野ひかる



4 部審査風景

田中 香帆	武田麻里子	高田 有紗	瀬邊 風馬	鈴木 志織	菅原 佳月	佐藤 玉華	斉藤 春果	小林 晴子	後藤 涼音	越川 瑞江	國武 実里	木全 雪華	北野 愛恵	神戸 香穂	河内ひなた
田中 杏果	但馬日菜子	高橋 遥菜	妙中 美月	隅田 玉枝	鈴木 環翠	清水 琴理	作田 菜月	斎藤 清香	後藤 三奈	後藤 煌雪	久保田香穂	切島 星海	木藤 綾音	北川 智暉	河邊奈扶美

鈴木 佑輔	酒井 菜月	齊藤 大貴	小山 結莉	鬼頭 栞由	川原 香泉	川島 豊翠	加藤登紀子	柿田 理恵	奥村 律子	小川 千尋	小川 董花	太田 遥	大島 優里	上田 馨星	岩川 実花	猪野周三枝子	磯野 玲泉	安藤 舞袖	荒川 実来	青木 美和	和田ひまわり	横井 七海	山田 圭泉	森 清子	明珍 有翠	宮島 琴音	三枝 愛実	廣瀬 芳雲	平澤 雲香	林 祐衣	林 溪舟	長谷川素雪	西村 克美	那須てるみ	長坂 壮修	永井 文栴	寺尾あかね	筒井あゆみ
曾我紗綾佳	白崎 千裕	齋藤 成美	今野 世子	木全 天翠	岸川 春光	河瀬 容子	加藤 容子	梶 里沙子	貝谷 溪仙	沖 高司	小川 星風	岡田 真奈	大霜 恵美	大島 万葉	岩月亜希子	今枝 順子	井浪 茉奈	石井 麗	荒木 麻佑	明壁 瑞季	渡邊 柳泉	吉川 抱雲	弓 春菜	山路 白耀	三輪 天音	宮原 昂大	水谷 静香	古川 春南	平野裕美子	番場真友子	林 成清	羽根田由紀江	西村 恵	新國 美菜	長野 史織	中川 輝星	永井 邦子	寺井多嘉子

佳作

第四部 (少字数)

鈴木 夏代	高和 朋美	加藤由美子	大竹 園美	天野 博子	吉田 絵子	矢藤 千尋	皆川 光	松崎理恵子	日比野弘心	橋倉 詠雪	高村 笑代	鈴木 幸枝	杏名のり子	加古 京子	浅井 静子	白井いづみ	菰田 真由	内藤由美子	榊原 節子	垣内 紀子	川部 啓子	鈴木 香妃	鈴木 博子	中根 久美	林 淳子	平井祐里子	水谷 有志	安江栄美子	山田 真咲	吉田 葵風	鶴殿 佳南	加藤 友子	北澤 真季	越水 菜月	鈴木 麻友	寺部 康穗	藤垣 広子	寶満 祥子	山本 康二	山盛 湖子	坂 みゆき	平松 里彩	船橋明日香	古崎 碧泉	堀部よしこ	三浦由美子	宮川 悠利	村瀬 紫華	森 暁雲	安永 朱里	山田 香帆	鷺野麻衣子	土屋 貞峰	長尾 有紗	長野 彩奈	難波 りえ	坂 みゆき	中島 玲子	藤原 茉優	三浦 蘭夢	山盛 湖子	中島 玲子	中島 玲子	佐藤 敬介	高槻 和子	廣瀬千代子	溝口 泰司	井口 洋子	伊藤 三加	加藤日出男	白井 ゆか	永田 正毅	長谷川里美	森 直行	貴島 小舟	佐藤 敬介	高槻 和子	廣瀬千代子	溝口 泰司	井口 洋子	伊藤 三加	加藤日出男	白井 ゆか	永田 正毅	長谷川里美	森 直行	小林 昌士	万緒 誠	寺本 誠	水野 基次	宮田 基次	伊藤 迅亮	鶴飼 要	河合 澄子	田中 澄子	名桐 昭彦	藤嶋 咲良
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------



5 部審査風景

小川 次子	太田 龍岳	伊藤 爲廣	山本 博信	小島 智明	井口 洋子	伊藤 三加	加藤日出男	白井 ゆか	永田 正毅	長谷川里美	森 直行	河村 一雄	岡本多加江	井上 弥紀	中根 未夢	宮田 基次	水野 基次	寺本 誠	鈴木 万緒	小林 昌士
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------





# 第六十八回 中日書道展を終えて

第一事業部長 後 藤 啓 太

## 《第六十八回中日書道展 反省会》

第六十八回中日書道展は、愛知県芸術文化センター・県美術館ギャラリーの改装工事により、今回は電気文化会館、名古屋市民ギャラリー栄、名古屋博物館の三会場にて、六会期に渡り展示することとなりました。それにもない、前回よりも多くの協賛会員の皆様、先生方に多大なご協力をいただきましたこと深く感謝申し上げます。

## 《書類発送・搬入、裏打作品搬入・搬出》

二月二十二日の書類発送に始まり、四月十八日の書類搬入、五月十八日の裏打作品搬入、二十一日の搬出と、協賛会員、係の先生方の多大なるお力添えにより三千点を超える作品を迅速に処理できました。一部、出品票の間違い等があり混乱しましたが、関係各位のご尽力により解決できましたこと御礼申し上げます。

## 《二科審査・一科審査・特別賞選考》

全ての審査会では、審査員、選考委員の先生の真摯な姿勢が貫かれ、厳正かつ公正な審査が行われました。

## 《展示会場》

今回は六会期に渡り展示があり、会場ごとに様々な展示を用いました。会場により細かく展示方法が違い若干の混乱もありましたが、担当部長の先生に的確に対応していただき、協賛会員、係の先生方の活躍により整然と美しい展示ができました。

猛烈な暑さの中、七月十五日(日)名鉄ニューグランドホテルに於いて午後五時より、第六十八回中日書道展 反省会を開催しました。この会は毎年展覧会終了後、各展示会場の部長・事務局の部長の先生方に、次回に向けての反省点やご意見をお伺いする会です。

本年は、樽本樹邨名誉会長代行、安藤滴水名誉副会長、鬼頭翔雲名誉副会長、常任顧問の先生方のご臨席を賜り、五十八名のご参加をいただきました。

反省会は大池青岑事務局長の司会で進められました。関根玉振理事長より今回の中日書道展に対し、協賛会員の皆様、各展示会場の部長の先生方の多大なるご尽力への御礼と、無事に会期を終了できたことに感謝の言葉がありました。その後、後藤啓太第一事業部長より、反省事項の説明がありました。どの会場も担当の先生方の御蔭で迅速かつスムーズに陳列・撤去ができましたことをご報告申し上げます。

また今回は、審査会場が名古屋駅前のウインク愛知から、名古屋伏見の電気文化会館東西ギャラリー・イベントホールの五階フロア全部を使い審査をすることになったことと、会期が木曜日の作品搬入に始まり、日曜日に特別賞選考と、日程が変わることの了承を得ました。

鬼頭翔雲名誉副会長より、今回の中日書道展の成功と今後の発展を祈念し、全国の

どの地区にも負けぬ中日書道会であることの再確認のお言葉と共に、力強い乾杯のご発声をいただき懇談会となりました。

今回、愛知県美術館の改装工事に伴い会場等が例年と異なりました。今回は愛知トリエンナーレの開催と重なり、会場が愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー栄・電気文化会館、名古屋博物館と四会場となります。

今回、第一事業部長として初めて中日書道展の細部にわたり全てを知ることとなりました。どの仕事も初めて知ることが沢山ありました。この反省会のご意見等を参考に、次回は更に良い展覧会となるように、精一杯尽力する所存です。

これまで以上のご支援ご協力を賜りますよう、協賛会員各位と本会会員の皆様方にお願ひ申し上げます。

## 第六十八回中日書道展作品展示会場および会期

二科	一科	無鑑査	二科審査会場		審査顧問 特別出品 一科審査会場
			二科五部作品	一部作品	
全一五部作品	全一五部作品	全一五部作品	名古屋市民ギャラリー	電気文化会館 東・西ギャラリー	全一五部作品 電気文化会館 東ギャラリー イベントホール
6/4 (月)					6/4 (月)
5 (火)					5 (火)
6 (水)					6 (水)
7 (木)					7 (木)
8 (金)					8 (金)
9 (土)					9 (土)
10 (日)					10 (日)
~~~~~					
18 (月)					18 (月)
19 (火)					19 (火)
20 (水)					20 (水)
21 (木)					21 (木)
22 (金)					22 (金)
23 (土)					23 (土)
24 (日)					24 (日)
25 (月)					25 (月)
26 (火)					26 (火)
27 (水)					27 (水)
28 (木)					28 (木)
29 (金)					29 (金)
30 (土)					30 (土)
7/1 (日)					7/1 (日)



反省会で挨拶される関根理事長



## 協 賛 会 員 一 覧

浅井梧竹堂	452-0823 名古屋市西区あし原町68-1	052-504-2703	光文堂(株)	461-0005 名古屋市東区東桜1-3-28	052-961-6866
(株)荒川印刷	460-0012 名古屋市中区千代田2-16-38	052-262-1006	小松表具店	485-0831 小牧市東2-544	0568-75-0281
石黒五雲堂	453-0834 名古屋市中村区豊国通4-46	052-412-7862	(株)ジェイエールシー	470-0113 日進市栄2丁目1603ヴィオラ日進1F	0561-73-3070
(株)一休園	731-4221 広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44	082-854-0019	書遊 川口春霞堂	497-0012 あま市七宝町下田四反割2	052-444-8024
伊藤大林堂	465-0004 名古屋市名東区香南1-507 長谷川コーポ1F	052-776-1881	書遊 平野筆墨堂	463-0021 名古屋市守山区大森1-2701	052-798-6651
印刷屋九二八(株)	497-0011 あま市七宝町安松13-9-1	052-443-1190	(有)真清社	460-0007 名古屋市中区新栄1-47-5	052-241-8085
ウサミ印刷(株)	451-0066 名古屋市西区児玉1-10-7	052-522-2361	(有)新泉堂	462-0006 名古屋市北区若鶴町344-1	052-901-0514
永楽堂	445-0854 西尾市永楽町4-10	0563-54-2053	(株)青雲堂	446-0008 安城市今本町3-1-15	0566-98-2233
(株)應天堂	501-1172 岐阜市下鶴飼1468	058-239-5200	(株)青柳堂	460-0008 名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F	052-259-0313
(有)岡本頌文堂	510-0081 三重県四日市市北町3-4	059-352-6010	創源工房	458-0034 名古屋市緑区若田3-106	052-629-5035
オフィスイズ	511-0243 三重県員弁郡東員町穴太1248-3	0594-76-3976	(有)荘文堂	478-0017 知多市新知宝泉坊30-1	0562-55-0517
魁盛堂(株)	451-0063 名古屋市西区押切2-2-13	052-521-3211	(株)大玄堂	500-8289 岐阜市須賀1-8-25	058-271-2662
開明株式会社	336-0931 さいたま市緑区原山2-22-20	048-882-1091	大同印刷(株)	501-6241 羽島市竹鼻町3214	0583-92-2345
加藤長寿堂	453-0809 名古屋市中村区上米野町4-24 吉田ビル1F 1B号室	052-452-4751	中電不動産(株)	460-0008 名古屋市中区栄2-2-5 電気文化会館	052-204-1383
(有)伽藍	460-0011 名古屋市中区大須3-8-10	052-242-7741	(株)長楽斎筆舗	460-0007 名古屋市中区新栄3-18-24	052-263-4554
(有)菊屋商店	460-0007 名古屋市中区新栄2-1-46	052-241-1145	名古屋キョー和	460-0008 名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F	052-263-9401
(有)吸月堂	462-0844 名古屋市中区清水2-2-2	052-931-6948	名古屋ハウコドウ	486-0836 春日井市八事町1-190-3-3	0568-89-7788
(株)玉蘭堂	150-0002 東京都渋谷区渋谷1-12-11 渋谷百瀬ビル5F	03-3499-4886	西川堂森表具店	491-0883 一宮市下田2-4-25	0586-72-3629
(株)金工堂	460-0003 名古屋市中区錦3-16-22	052-961-0151	美創堂	486-0831 春日井市ことぶき町8-1	0568-81-9236
金陽堂表具店	471-0076 豊田市久保町3-27-1	0565-32-0863	ホテル ナゴヤキャッスル	451-0034 名古屋市中区樋の口町3-19	052-521-2121
(株)呉竹	630-8670 奈良県奈良市南京終町7-576	0742-50-2050	(株)墨運堂	630-8043 奈良市六条1-5-35	0742-52-0310
(有)高誠堂	440-0804 豊橋市呉服町44	0532-52-5514	松屋紙店	475-0866 半田市清水北町63	0569-21-2572

# 平成三十年 第一回 理事会 総会

六月十二日(土) 於 木曽路錦店  
六月二十四日(日) 於 ホテルナゴヤキャッスル

庶務部長 村 瀬 俊 彦

## 第一回理事会開催

本年度第一回理事会が去る六月二日に開催されました。理事二十五名(欠席五名)の出席のもと、関根理事長の挨拶に始まり、以下に示しました平成三十年度提出議案について審議されました。各議案について慎重に審議され、すべての議案が原案通り承認されました。

当日の議案は以下の通りです。

### 第一号議案

- 平成三十年度総会提出議案について
- 平成二十九年事業報告書の承認に関する件

関する件

### 第四号議案

- 名誉顧問の承認に関する件
- 第五号議案
- その他

- 平成二十九年収支決算書の承認に関する件

- 財産目録の承認に関する件

### 監査報告

### 第二号議案

平成三十年度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件

### 第三号議案

会計処理規定の制定に



関根玉振理事長による議事進行

## 平成三十年度総会開催

平成三十年度公益社団法人中部日本書道会総会は、ホテルナゴヤキャッスルにて、五三七名(委任状提出者二、二九四名)出席をいただき開催されました。関根理事長の挨拶に始まり、以下の議案について慎重に審議が行われ、承認されました。

### 第一号議案

- 平成二十九年事業報告書の承認に関する件

### 第二号議案

- 平成二十九年収支決算書の承認に関する件

### 第三号議案

- 財産目録の承認に関する件
- 監査報告
- 報告事項

- 名誉顧問の承認に関する件

会計処理規定の制定について



総会風景



# 平成三十年度 公益社団法人 中部日本書道会 総会 議案書

日 時 平成三十年六月二十四日(日)・場 所 ホテルナゴヤキャッスル

第一号議案 平成二十九年度事業報告書の承認に関する件

## 平成二十九年度 事業 報告

### I 書道普及振興事業(公益目的事業1)

#### 1 展覧会事業

##### (1) 第六七回中日書道展

会場及び期間

愛知県美術館

平成二十九年六月十四日(水)～六月十八日(日)

名古屋市民ギャラリー栄

平成二十九年六月十三日(火)～六月十八日(日)

名古屋博物館

平成二十九年六月二十日(火)～六月二十五日(日)

平成二十九年六月二十八日(水)～七月二日(日)

出品点数

四、二四四点

第一部(漢字)	二、六〇七点
第二部(かな)	四五二点
第三部(近代詩文書)	七四九点
第四部(少字数)	二一〇点
第五部(篆刻・刻字)	二二六點

##### (2) 第六八回中日書きぞめ展

期 平成三十年三月十七日(土)～十八日(日)

場 ナディアパーク アトリウム

出品点数 一五、七三八点

##### (3) 中日支部学生書道展

###### ① 第四六回一宮支部学生書道展

期 平成二十九年十一月二十五日(土)～二十六日(日)

場 一宮スポーツ文化センター

出品点数 三、三八三点

###### ② 第五三回半田支部学童書道展

期 平成二十九年七月二十二日(土)～二十三日(日)

場 半田市福祉文化会館

出品点数 二、三三二点

#### 2 公開講座事業

##### 第二十一回公開講座

日 時 平成二十九年十一月二十六日(日)

場 電気文化会館 イベントホール

受講者 一一九名

テーマ 「かな『あれこれ』」

講師 理事 村瀬 俊彦 先生

テーマ 「書の五日話」

講師 理事 工藤 俊朴 先生

#### 3 講演会、講習会、研究会事業

##### (1) 第二十九回書道教育研修会(実技講習会)

日 時 平成二十九年十月九日(月・祝)

場 名古屋国際センター

内容 漢字・仮名・近代詩文書・篆刻講座

書道講話

漢字「草書を書く」 関根 玉振 先生

仮名「美しいかな―古筆と共に」 荒木 友梅 先生

近代詩文書「詩文書を楽しむ」 清水 春蘭 先生

篆刻「一字印を刻してみよう」 佐野 翠峰 先生

参加者 七九名

講師 本部

演 題 「小野道風はこんな人だった」

参加者 五五名

講師 理事 村瀬 俊彦 先生

演 題 「かな『あれこれ』」

参加者 六四名

講師 理事 村瀬 俊彦 先生

演 題 「かな『あれこれ』」

講師 春日井道風記念館館長

落合 哲 先生

参加者 四二七名

一宮支部

平成三十年二月二十五日(日) 一宮スポーツ文化センター

演 題 「書のいろいろ(筆硯叢話)」

書とは・美しい文字の形・中部書壇の変遷

講師 一宮支部第八代支部長

参加者 一六七名

半田支部

平成三十年三月四日(日) 半田市福祉文化会館

演 題 「常楽寺」半田市と常楽寺

講師 西山浄土宗 天龍山常楽寺住職

参加者 一六七名

東三河支部

平成二十九年八月六日(日) ホテルアソシア豊橋

演 題 「いきいきと健康な生活を送るためのヒント」

講師 医療法人さわらび会福祉村病院副委員長

参加者 六四名

西三河支部

平成三十年二月二十五日(日) 岡崎商工会議所

演 題 「笑いと健康のお話と落語」

講師 耳鼻咽喉科医師 柘植 勇人 先生

参加者 一四〇名

濃飛支部

平成二十九年七月九日(日) 湯之島館

演 題 付立「水墨画を楽しむ」

講師 日本画工房 篁

参加者 三〇名

岐阜支部

平成二十九年六月四日(日) 岐阜会館

演 題 「語源散策」

講師 中部学院大学講師 三木 秀生 先生

参加者 六七名

半田支部公開書道研修会

平成二十九年十月一日(日) 半田市福祉文化会館

演 題 「かな『あれこれ』」

講師 理事 村瀬 俊彦 先生

II 福祉事業(公益目的事業2)

二〇一七年チャリティー愛の募金  
—しあわせ薄い人々に愛の手を—  
寄託 中日新聞社会事業団へ二百万円  
東海テレビ福祉文化事業団へ百万円  
各支部より中日新聞社支局等を通じ、中日新聞社社会事業団に寄託

一宮支部より中日新聞一宮総局へ十万円  
半田支部より中日新聞半田支局へ十万円  
西三河支部より中日新聞岡崎支局へ十万円  
東三河支部より中日新聞豊橋総局へ十万円  
濃飛支部より中日新聞中津川通信局・恵那通信局へ各五万円  
北勢支部より中日新聞四日市支局へ十万円  
中南勢支部より中日新聞三重総局へ十万円  
岐阜支部より中日新聞岐阜支局へ十万円

III その他の事業(相互扶助等事業)

1 書道に関する調査研究および発表  
調査研究及び発表

2 書道教育者養成及び普及事業  
(1) 書道教育者の推薦制度 八件

3 展覧会事業  
(1) 第二六回記念寿書展

会 期 平成二十九年十一月二十一日(火)～十一月二十六日(日)  
会 場 電気文化会館 東西ギャラリー  
出品点数 一七八点  
(2) 中日支部展・支部選抜展  
① 一宮支部  
第六三回支部書道展  
会 期 平成二十九年十一月二十五日(土)～二十六日(日)  
会 場 一宮市スポーツ文化センター  
出品点数 二〇五点  
② 半田支部  
第五一回半田支部展  
会 期 平成二十九年九月三十日(土)～十月一日(日)  
会 場 半田市福祉文化会館  
出品点数 一二〇点  
③ 西三河支部  
第五〇回記念西三河支部会員展  
会 期 平成三十年二月二十一日(水)～二十五日(日)  
会 場 岡崎市美術館  
出品点数 二二五点  
④ 東三河支部  
東三河支部展

4 講習会・講演会・研究会・研修会事業

(1) 講習会

① 東三河支部  
平成三十年一月二十八日(日) 豊川市桜ヶ丘ミュージアム  
内 容 「陶印制作」  
参加者 四八名

② 北勢支部  
平成三十年二月十一日(日) じばさん三重  
内 容 「墨の不思議(鈴鹿墨)」  
講 師 進誠堂 伝統工芸士 伊藤 忠 様  
進誠堂 伊藤 晴信 様  
参加者 四〇名

(2) 講演会

① 北勢支部  
平成二十九年七月二十三日(日) 四日市市文化会館  
演 題 「跋文に見る蘇軾」  
講 師 公益社団法人中部日本書道会評議員  
上小倉 横山 先生

会 期 平成二十九年八月一日(火)～八月六日(日)  
会 場 豊橋市美術館  
出品点数 一三〇点

⑤ 東三河支部選抜展  
会 期 平成三十年一月三十日(火)～二月四日(日)  
会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム  
出品点数 七五点

⑥ 濃飛支部展  
会 期 平成二十九年七月七日(金)～九日(日)  
会 場 下呂交流会館  
出品点数 七四点

⑦ 北勢支部展  
会 期 平成二十九年七月二十一日(金)～二十三日(日)  
会 場 四日市市文化会館  
出品点数 七八点

⑧ 中南勢支部展  
会 期 平成二十九年十一月十五日(水)～十九日(日)  
会 場 三重県立美術館(県民ギャラリー)  
出品点数 一六一点

⑨ 岐阜支部展  
第二三回岐阜支部展  
会 期 平成二十九年九月八日(金)～十日(日)  
会 場 岐阜市市民会館  
出品点数 二二三点

② 参加者 六五名  
中南勢支部  
平成二十九年十月一日(日)  
演 題 「小野道風について」  
講 師 春日井道風記念館館長 落合 哲 先生  
参加者 五二名

(3) 研究会  
① 西三河支部  
平成三十年三月二十一日(水・祝)  
安城市市民会館  
中日書道展 作品研究会  
参加者 一〇八名

(4) 研修会  
① 本部(史跡探訪研修旅行)  
平成二十九年十一月二十一日(火)～二十三日(木・祝)  
愛知県・江蘇省友好書道展(中国・江蘇省)  
参加者 六六名

② 一宮支部  
平成二十九年十月二十九日(日)  
南信州の旅(飯田市美術館・奈良井宿)  
参加者 一四四名

③ 半田支部  
平成二十九年十一月十二日(日)  
篠田桃紅美術空間・熊倉守一つけち記念館・馬籠宿散策  
参加者 三九名

④ 西三河支部  
平成二十九年十月三十一日(火)  
天竜峡十勝・川本喜八郎人形美術館  
参加者 三八名

⑤ 東三河支部  
平成二十九年十月二十九日(日)  
信楽町 ミホミュージアム・信楽焼き登り窯見学  
参加者 三八名

⑥ 濃飛支部  
平成二十九年十一月十二日(日)  
信州康耀堂美術館  
参加者 三〇名

⑦ 北勢支部  
平成二十九年十一月十二日(日)  
「春日井市道風記念館」「日比野五鳳記念美術館」  
「奥の細道むすびの地記念館」  
参加者 三六名

⑧ 中南勢支部  
平成二十九年五月二十八日(日)  
「平山郁夫展」「佐藤忠良展」長浜黒壁スクエア―散策



⑨ 参加者 三五名  
岐阜支部  
平成二十九年十一月二十九日(水)  
奈良「奈良薬師寺とならまち散策」  
参加者 三八名

5 福利厚生事業

① 塾総合保険 一、七七五名  
② 会員交流会  
会員交流ボウリング大会  
平成二十九年十二月十日(日) 星ヶ丘ボウル  
参加者 九〇名

6 老人会色紙贈呈

半田支部  
平成二十九年八月十八日(金)

7 組織拡大事業

・会員増、各種展覧会出品者増の促進を図った。  
・会員章(門章・襟章)の交付  
・会員名簿の発行  
広報活動事業

8 中日会報

(1) 一八四号 平成二十九年四月一日付け発行  
一八五号 平成二十九年七月一日付け発行  
一八六号 平成二十九年十月一日付け発行  
一八七号 平成三十年一月一日付け発行  
支部会報  
① 一宮支部  
四十六号 平成二十九年六月一日付け発行  
② 半田支部  
七十七号 平成二十九年四月十日付け発行  
七十八号 平成二十九年十月十日付け発行  
③ 西三河支部  
七十三号 平成二十九年六月一日付け発行  
七十四号 平成二十九年十二月一日付け発行  
④ 東三河支部  
六十九号 平成二十九年十月一日付け発行  
⑤ 濃飛支部  
七号 平成三十年二月一日付け発行  
⑥ 北勢支部  
七号 平成三十年三月十五日付け発行  
⑦ 岐阜支部  
四十九号 平成二十九年七月三十一日付け発行  
五十号 平成三十年二月二十七日付け発行

(3) ホームページ

9 随時更新

10 資料文献収集保存事業  
継続中  
書道功労者等顕彰事業  
該当者なし

IV 管理業務

1 本会の事業の遂行のため以下の会議をそれぞれ開催した。  
総会  
平成二十九年六月十八日(日)  
ウエスティンナゴヤキャッスルにて開催  
次の議案について審議、原案の通り議決した。  
第一号議案 平成二十八年度事業報告書の承認に関する件  
第二号議案 平成二十八年度収支決算書の承認に関する件  
第三号議案 財産目録の承認に関する件  
第四号議案 理事・監事の選任に関する件

2 理事会

第一回理事会  
平成二十九年四月九日(日) キャッスルプラザにて開催  
次の議案について審議、原案通り議決した。  
第一号議案 新役員選考委員の選出に関する件  
第二回理事会  
平成二十九年五月二十一日(日) 本部にて開催  
次の議案について審議、原案通り議決した。  
第一号議案 平成二十九年度総会提出議案について  
(1) 平成二十八年度事業報告に関する件  
(2) 平成二十八年度収支報告に関する件  
(3) 財産目録の承認に関する件(監査報告)

4 企画委員会

第一回企画委員会  
平成二十九年四月九日(日) キャッスルプラザ  
第二回企画委員会  
平成二十九年五月二十一日(日) 本部  
第三回企画委員会  
平成二十九年六月十八日(日)  
ウエスティンナゴヤキャッスル  
第四回企画委員会  
平成二十九年七月十六日(日) 名鉄グランドホテル  
第五回企画委員会  
平成二十九年九月十日(日) 本部  
第六回企画委員会  
平成二十九年十月九日(月・祝) 本部  
第七回企画委員会  
平成二十九年十一月十一日(土) 本部  
第八回企画委員会  
平成二十九年十二月三日(日) 本部  
第九回企画委員会  
平成三十年一月十四日(日) 名鉄ニューグランドホテル  
第一〇回企画委員会  
平成三十年二月十八日(日) 名古屋観光ホテル  
第一一回企画委員会  
平成三十年三月十八日(日) 本部

3 評議員会

平成三十年二月十八日(日) 名古屋観光ホテルにて開催  
次の事項について報告をした。  
(1) 平成三十年度事業計画書について  
(2) 平成三十年度収支予算書について  
(3) 正会員・審査会員の承認について  
企画委員会  
第一回企画委員会  
平成二十九年四月九日(日) キャッスルプラザ  
第二回企画委員会  
平成二十九年五月二十一日(日) 本部  
第三回企画委員会  
平成二十九年六月十八日(日)  
ウエスティンナゴヤキャッスル  
第四回企画委員会  
平成二十九年七月十六日(日) 名鉄グランドホテル  
第五回企画委員会  
平成二十九年九月十日(日) 本部  
第六回企画委員会  
平成二十九年十月九日(月・祝) 本部  
第七回企画委員会  
平成二十九年十一月十一日(土) 本部  
第八回企画委員会  
平成二十九年十二月三日(日) 本部  
第九回企画委員会  
平成三十年一月十四日(日) 名鉄ニューグランドホテル  
第一〇回企画委員会  
平成三十年二月十八日(日) 名古屋観光ホテル  
第一一回企画委員会  
平成三十年三月十八日(日) 本部

第二号議案 平成三十年度予算(案)に関する件  
収支予算書  
(1) 正味財産増減予算書  
(2) 事業区分後の正味財産増減予算書  
(3) 資金調達及び設備投資の見込みについて  
(4) 評議員の承認に関する件  
第三号議案 評議員の承認に関する件  
第四号議案 正会員の承認に関する件  
第五号議案 審査会員の承認に関する件  
第六号議案 依嘱特別昇格者の承認に関する件  
第七号議案 顧問の選任に関する件  
評議員会  
平成三十年二月十八日(日) 名古屋観光ホテルにて開催  
次の事項について報告をした。  
(1) 平成三十年度事業計画書について  
(2) 平成三十年度収支予算書について  
(3) 正会員・審査会員の承認について  
企画委員会  
第一回企画委員会  
平成二十九年四月九日(日) キャッスルプラザ  
第二回企画委員会  
平成二十九年五月二十一日(日) 本部  
第三回企画委員会  
平成二十九年六月十八日(日)  
ウエスティンナゴヤキャッスル  
第四回企画委員会  
平成二十九年七月十六日(日) 名鉄グランドホテル  
第五回企画委員会  
平成二十九年九月十日(日) 本部  
第六回企画委員会  
平成二十九年十月九日(月・祝) 本部  
第七回企画委員会  
平成二十九年十一月十一日(土) 本部  
第八回企画委員会  
平成二十九年十二月三日(日) 本部  
第九回企画委員会  
平成三十年一月十四日(日) 名鉄ニューグランドホテル  
第一〇回企画委員会  
平成三十年二月十八日(日) 名古屋観光ホテル  
第一一回企画委員会  
平成三十年三月十八日(日) 本部

第四回理事会  
平成三十年一月十四日(日)  
名鉄ニューグランドホテルにて開催  
次の議案について審議、原案通り議決した。  
第一号議案 平成三十年度事業計画(案)に関する件

第2号議案 平成29年度収支報告書の承認に関する件

平成29年度 収支計算書

〔自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日〕

備 考

科 目	決算額 (A)	前年度決算額	予算額 (B)	差異(A)-(B)	説 明
1 事業活動の収入	73,500	73,701	73,500	0	3000万×0.245%
1.1 事業活動の収入	249,009	249,882	250,000	△991	5300万×0.02-0.01%, 国債利息
1.1.1 事業活動の収入	448,000	0	448,000	252,000	理事監事14000円×32名
1.1.2 事業活動の収入	14,280,000	13,189,000	14,028,000	△1,088,000	理事監事以上1200円×1190名
1.1.3 事業活動の収入	19,072,000	16,947,000	20,152,000	△1,080,000	正会員8000円×2,384名
1.1.4 事業活動の収入	2,095,000	2,190,000	2,330,000	△235,000	正会員5000円×419名
1.1.5 事業活動の収入	1,100,000	1,075,000	1,125,000	△25,000	協賛会員25000円×44件
1.1.6 事業活動の収入	36,995,000	33,401,000	38,083,000	△1,088,000	協賛会員25000円×44件
1.1.7 事業活動の収入	11,000	88,000	0	11,000	評議員以上11000円×1名
1.1.8 事業活動の収入	378,000	476,000	0	378,000	正会員7000円×54名
1.1.9 事業活動の収入	120,000	115,000	0	120,000	正会員5000円×24名
1.1.10 事業活動の収入	50,000	0	0	50,000	協賛会員25000円×2件
1.1.11 事業活動の収入	559,000	679,000	0	559,000	
1.1.12 事業活動の収入	724,000	890,000	780,000	△56,000	出品料会員(400×16-1概@500×16)
1.1.13 事業活動の収入	6,914,000	6,077,000	7,766,000	△852,000	支部別内訳参照
1.1.14 事業活動の収入	5,539,215	5,667,050	5,956,000	△416,785	支部別内訳参照
1.1.15 事業活動の収入	3,455,000	3,650,000	3,755,000	△300,000	支部別内訳参照
1.1.16 事業活動の収入	3,157,400	3,025,500	2,661,000	496,400	支部別内訳参照
1.1.17 事業活動の収入	92,000	187,000	255,000	163,000	支部別内訳参照
1.1.18 事業活動の収入	200,000	175,000	100,000	100,000	支部別内訳参照
1.1.19 事業活動の収入	200,000	242,240	260,000	△30,240	支部別内訳参照
1.1.20 事業活動の収入	400,000	292,000	270,000	130,000	65件×1775名
1.1.21 事業活動の収入	196,000	246,000	240,000	△44,000	2000円×88名
1.1.22 事業活動の収入	66,000	9,000	45,000	21,000	3000円×79名 (有料22名)
1.1.23 事業活動の収入	0	0	0	0	
1.1.24 事業活動の収入	46,659,900	47,859,800	46,970,000	△310,100	中日収入内訳参照
1.1.25 事業活動の収入	5,740,380	5,808,940	5,824,000	△83,620	400円×15738名(兼理事費差引)
1.1.26 事業活動の収入	4,353,000	4,314,001	4,313,000	△40,000	
1.1.27 事業活動の収入	16,430,000	16,136,000	16,600,000	△470,000	
1.1.28 事業活動の収入	2,458,000	2,055,500	2,161,000	△297,000	支部別内訳参照
1.1.29 事業活動の収入	93,504,655	93,345,031	94,576,000	△1,071,345	
1.1.30 事業活動の収入	0	50,000	0	0	
1.1.31 事業活動の収入	0	0	0	0	
1.1.32 事業活動の収入	40	92	1,000	△960	一宮芸術祭交付金
1.1.33 事業活動の収入	960,000	310,400	1,050,000	△90,000	備品貸出等
1.1.34 事業活動の収入	260,700	97,000	330,000	△90,000	
1.1.35 事業活動の収入	100,000	0	215,000	△115,000	
1.1.36 事業活動の収入	4,500	6,000	0	4,500	
1.1.37 事業活動の収入	1,325,204	413,492	1,596,600	△270,760	
1.1.38 事業活動の収入	132,706,404	128,212,106	134,578,500	△1,872,096	
2 事業活動の支出	658,495	954,032	990,000	△331,505	支部事業費含む
2.1 事業活動の支出	310,146	926,366	784,000	△473,854	中日展・寿展受付等
2.1.1 事業活動の支出	1,067,609	1,111,974	1,051,000	△16,609	各種印刷
2.1.2 事業活動の支出	7,995,823	7,012,294	8,338,000	△1,042,677	記念品代
2.1.3 事業活動の支出	2,522,034	314,240	275,000	△2,229,834	支部事業費
2.1.4 事業活動の支出	9,621,017	10,318,380	10,869,000	△1,247,983	作業時食糧費等
2.1.5 事業活動の支出	6,735,642	8,309,852	8,923,800	△1,567,258	作業時食糧費等
2.1.6 事業活動の支出	726,199	673,562	865,000	△138,601	半田支部事業光熱費
2.1.7 事業活動の支出	9,327,183	9,535,263	9,395,000	△167,817	半田支部事業光熱費
2.1.8 事業活動の支出	59,660	222,220	82,000	△22,340	会場使用料等
2.1.9 事業活動の支出	1,633,129	1,066,726	2,989,100	△1,355,971	一宮支部事業費
2.1.10 事業活動の支出	1,701,970	1,887,758	1,728,000	△168,000	一宮支部事業費
2.1.11 事業活動の支出	6,664,304	7,310,587	8,178,000	△1,513,696	一宮支部事業費
2.1.12 事業活動の支出	380,000	0	100,000	△100,000	一宮支部事業費
2.1.13 事業活動の支出	380,000	350,000	380,000	0	一宮支部事業費
2.1.14 事業活動の支出	4,871,601	5,517,022	4,078,000	793,601	委託作業等
2.1.15 事業活動の支出	3,900,000	3,800,000	3,800,000	0	委託作業等
2.1.16 事業活動の支出	340,000	40,000	100,000	240,000	外国研修補助
2.1.17 事業活動の支出	501,730	501,990	470,000	241,730	ホカリ大会
2.1.18 事業活動の支出	7,508,800	7,508,800	7,509,000	△1,200	新開 業界紙広告
2.1.19 事業活動の支出	1,282,987	785,356	1,355,000	424,890	新開 業界紙広告
2.1.20 事業活動の支出	271,610	273,245	286,500	△14,890	懇親会等
2.1.21 事業活動の支出	1,956,500	2,300,562	2,940,000	△383,500	若年層作品
2.1.22 事業活動の支出	16,263,084	15,142,810	16,000,000	△269,919	
2.1.23 事業活動の支出	2,888,504	2,128,428	1,921,000	667,904	
2.1.24 事業活動の支出	86,608,124	86,492,467	91,921,500	△5,313,376	事業別一覽参照

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合 計
支部別内訳	820,000	566,000	2,896,000	1,315,000	1,960,000	2,225,500	368,500	530,000	6,914,000
1 特定資産利息収入	0	0	61	0	0	0	0	0	61
2 寄付金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 普通預金利息収入	0	0	15	0	0	0	0	0	15
4 手数料等雑収入	0	0	4,920	0	0	0	0	0	4,920
5 負担金収入	100,000	0	0	0	0	0	0	0	100,000
6 雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	100,000	0	4,986	0	0	0	0	0	105,001
積立金取崩	0	0	1,400,125	0	0	0	0	0	1,400,125
支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合 計
支部別内訳	109,124	74,673	72,385	77,715	55,220	118,163	129,495	66,526	703,301
1 講演会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 講習会費	0	105,956	0	114,504	0	0	0	0	220,460
3 研究会費	1,302,157	448,873	384,882	319,033	261,327	308,837	271,753	415,887	3,072,749
4 支部研修会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 支部選抜会費	1,693,370	1,276,864	2,560,194	0	0	0	0	0	5,530,428
6 支部学生展費	267,146	768,530	3,332,325	1,218,403	144,816	142,133	230,060	473,237	6,556,650
7 支部展覧費	0	137,941	0	0	0	0	0	0	137,941
8 色紙展覧費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 普通振興事業費	380,000	0	0	0	0	0	0	0	380,000
10 周年記念事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 支部祝賀会費	960,500	550,000	0	0	306,460	150,000	222,381	399,563	2,588,904
事業費計	4,712,297	3,362,837	6,464,545	1,890,241	767,823	853,689	1,355,213	2,019,316	15,095,316
1 支部事務所費	925,692	470,541	1,060,323	326,772	150,087	185,630	58,636	1,205,397	4,382,988
合 計	5,637,899	3,833,378	7,524,868	2,217,013	917,910	974,301	912,325	2,560,610	24,578,304
記念事業積立	70,000	0	0	0	0	30,000	0	0	100,000
前受金支出	0	50,000	0	0	0	0	0	0	50,000
会費前受金	0	50,000	0	122,000	0	0	0	0	172,000
前期未繰越	823,976	647,577	579,868	60,855	107,716	9,987	180,701	599,961	3,010,641
次期繰越	832,117	277,701	1,949,296	508,842	164,806	78,086	361,876	608,854	4,781,578



科目	決算額(A)	前年度決算額	予算額(B)	差異(A)-(B)	説明
② 支費	1,095,734	1,145,118	1,005,000	90,734	支部事務所費含む
1 支費	214,296	233,599	207,000	7,296	
2 支費	64,079	33,132	93,000	△ 28,921	
3 支費	31,674	61,890	62,000	△ 30,216	
4 支費	331,320	371,978	413,000	△ 51,680	
5 支費	4,784,338	4,814,135	4,946,000	△ 161,062	
6 支費	0	0	0	0	
7 支費	841,072	841,005	1,080,000	△ 238,928	
8 支費	40,501	131,911	120,000	△ 79,499	
9 支費	1,565,382	1,498,854	1,830,000	△ 334,146	
10 支費	409,099	83,000	110,000	△ 299,099	
11 支費	684,995	607,441	733,000	△ 48,005	
12 支費	3,207,243	3,316,669	2,872,000	△ 335,243	
13 支費	471,794	513,782	563,000	△ 510,206	
14 支費	542,220	788,888	982,000	△ 20,780	
15 支費	10,405,494	6,897,516	9,112,000	△ 1,293,494	
16 支費	245,812	340,339	355,000	△ 109,158	
17 支費	4,989,202	5,299,438	3,672,000	△ 1,317,202	
18 支費	506,289	555,975	338,000	△ 168,289	
19 支費	7,771,980	7,801,980	7,862,000	△ 90,020	
20 支費	1,341,905	429,514	1,665,100	△ 123,195	
21 支費	38,366	0	200,000	△ 161,034	
22 支費	23,700	0	25,000	△ 1,300	
23 支費	414,400	575,750	225,000	△ 188,400	
24 支費	597,852	471,388	765,000	△ 167,148	
25 支費	0	50,000	50,000	△ 50,000	
26 支費	18,000	27,000	18,000	0	
27 支費	758,828	833,897	850,000	△ 91,172	
28 支費	329,400	329,400	329,400	0	
29 支費	2,848,080	1,986,153	1,996,400	△ 5,400	
30 支費	37,032	0	42,000	△ 4,968	
31 支費	44,611,317	40,056,484	42,316,500	2,294,817	
32 支費	131,219,441	126,548,971	134,238,000	△ 3,018,559	
事業活動収入	1,486,963	1,663,135	340,500	△ 1,146,463	
II 活動収入	0	0	0	0	
1 活動収入	0	0	0	0	
① 活動収入	0	0	0	0	
1 活動収入	0	0	0	0	
2 活動収入	0	0	0	0	
3 活動収入	0	0	0	0	
4 活動収入	0	0	0	0	
5 活動収入	0	0	0	0	
6 活動収入	0	0	0	0	
2 活動収入	0	0	0	0	
① 活動収入	0	0	0	0	
1 活動収入	0	0	0	0	
② 活動収入	0	0	0	0	
1 活動収入	0	0	0	0	
③ 活動収入	0	0	0	0	
1 活動収入	0	0	0	0	
2 活動収入	0	0	0	0	
3 活動収入	0	0	0	0	
4 活動収入	0	0	0	0	
5 活動収入	0	0	0	0	
6 活動収入	0	0	0	0	
7 活動収入	0	0	0	0	
8 活動収入	0	0	0	0	
9 活動収入	0	0	0	0	
10 活動収入	0	0	0	0	
11 活動収入	0	0	0	0	
12 活動収入	0	0	0	0	
13 活動収入	0	0	0	0	
14 活動収入	0	0	0	0	
15 活動収入	0	0	0	0	
16 活動収入	0	0	0	0	
17 活動収入	0	0	0	0	
18 活動収入	0	0	0	0	
19 活動収入	0	0	0	0	
20 活動収入	0	0	0	0	
21 活動収入	0	0	0	0	
22 活動収入	0	0	0	0	
23 活動収入	0	0	0	0	
24 活動収入	0	0	0	0	
25 活動収入	0	0	0	0	
26 活動収入	0	0	0	0	
27 活動収入	0	0	0	0	
28 活動収入	0	0	0	0	
29 活動収入	0	0	0	0	
30 活動収入	0	0	0	0	
31 活動収入	0	0	0	0	
32 活動収入	0	0	0	0	
III 活動支出	0	0	0	0	
1 活動支出	0	0	0	0	
2 活動支出	0	0	0	0	
3 活動支出	0	0	0	0	
4 活動支出	0	0	0	0	
5 活動支出	0	0	0	0	
6 活動支出	0	0	0	0	
7 活動支出	0	0	0	0	
8 活動支出	0	0	0	0	
9 活動支出	0	0	0	0	
10 活動支出	0	0	0	0	
11 活動支出	0	0	0	0	
12 活動支出	0	0	0	0	
13 活動支出	0	0	0	0	
14 活動支出	0	0	0	0	
15 活動支出	0	0	0	0	
16 活動支出	0	0	0	0	
17 活動支出	0	0	0	0	
18 活動支出	0	0	0	0	
19 活動支出	0	0	0	0	
20 活動支出	0	0	0	0	
21 活動支出	0	0	0	0	
22 活動支出	0	0	0	0	
23 活動支出	0	0	0	0	
24 活動支出	0	0	0	0	
25 活動支出	0	0	0	0	
26 活動支出	0	0	0	0	
27 活動支出	0	0	0	0	
28 活動支出	0	0	0	0	
29 活動支出	0	0	0	0	
30 活動支出	0	0	0	0	
31 活動支出	0	0	0	0	
32 活動支出	0	0	0	0	
IV 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
1 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
2 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
3 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
4 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
5 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
6 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
7 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
8 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
9 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
10 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
11 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
12 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
13 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
14 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
15 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
16 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
17 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
18 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
19 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
20 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
21 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
22 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
23 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
24 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
25 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
26 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
27 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
28 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
29 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
30 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
31 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
32 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
活動繰越収支差額	0	0	0	0	
1 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
2 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
3 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
4 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
5 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
6 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
7 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
8 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
9 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
10 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
11 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
12 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
13 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
14 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
15 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
16 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
17 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
18 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
19 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
20 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
21 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
22 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
23 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
24 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
25 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
26 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
27 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
28 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
29 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
30 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
31 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
32 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
活動繰越収支差額	0	0	0	0	
1 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
2 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
3 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
4 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
5 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
6 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
7 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
8 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
9 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
10 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
11 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
12 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
13 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
14 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
15 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
16 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
17 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
18 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
19 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
20 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
21 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
22 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
23 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
24 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
25 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
26 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
27 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
28 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
29 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
30 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
31 活動繰越収支差額	0	0	0	0	
32 活動繰越収支差額	0				

第 3 号議案 財産目録の承認に関する件

財 産 目 録

平成30年 3 月31日現在

	円
総 資 産 額	116, 778, 283 ①A
基 本 財 産	30, 000, 000
運 用 財 産	86, 778, 283
負 債	791, 037

		円	
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
<b>①現金預金（運用資産）</b>			
(1) 現 金	本部 現金	666,552	
	一宮支部 現金	783,900	
	半田支部 現金	0	
	西三河支部 現金	229,378	
	東三河支部 現金	18,240	
	濃飛支部 現金	59,192	
	北勢支部 現金	71,287	
	中南勢支部 現金	359,984	
	岐阜支部 現金	1,413	
	現金合計	2,189,946	
(2) 普 通 預 金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	264,112	① - 1
	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店（理）	263,011	②
	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	255,159	③ - 1
	大垣共立銀行菊井町支店	7,223	④
	瀬戸信用金庫名古屋支店	147,419	⑤ - 1
	一宮支部 ゆうちょ銀行	48,217	⑥ - 1
	半田支部 半田信用金庫	0	⑦
	西三河支部 瀬戸信用金庫	0	⑧ - 1
	西三河支部 ゆうちょ銀行	593,197	⑨
	西三河支部 中央信金	1,126,721	⑩
	東三河支部 ゆうちょ銀行	365,000	⑪
	濃飛支部 ゆうちょ銀行	105,614	⑫
	北勢支部 ゆうちょ銀行	1,825	⑬
	岐阜支部 十六銀行	602,444	⑭
	普通預金合計	3,779,942	
(3) 郵 便 振 替	本部 名古屋中央郵便局	512,345	⑮
	一宮支部 郵便振替	0	⑯
	半田支部 郵便振替	277,701	⑰
	西三河支部 郵便振替	0	⑱ - 1、2
	東三河支部 郵便振替	125,602	⑲
	濃飛支部 郵便振替	0	⑳
	北勢支部 郵便振替	4,974	㉑
	中南勢支部 郵便振替	1,892	㉒
	岐阜支部 郵便振替	4,997	㉓
	郵便振替合計	927,511	
(4) 定 期 預 金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	1,200,000	① - 2
	大垣共立銀行菊井町支店	0	
	定期預金合計	1,200,000	
②前払金（運用資産）	過払金	0	
	前払金合計	0	
③未収金（運用資産）	未収会費	2,136,000	年会費、協賛会費
	流動資産合計	10,233,399	
<b>2. 固定資産</b>			
<b>①基本財産</b>			
(1) 土 地	該当なし		
(2) 建 物	該当なし		
(3) 基 本 金 庫	瀬戸信用金庫名古屋支店	30,000,000	本部 公益目的保有財産 ⑤ - 2
(4) 有 価 証 券	該当なし		
(5) 機 械 器 具	該当なし		
	基本財産合計	30,000,000	
<b>②特定資産（運用財産）</b>			
(1) 土 地	該当なし		
(2) 建 物	該当なし		
(3) 特 定 資 産	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	46,916,000	本部 公益目的保有財産 ③ - 2
	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	2,032,000	本部 公益目的保有財産 ① - 3
	野村証券岐阜支店	20,133,400	本部 公益目的保有財産 ②
国 債 （ 2 0 年 ）			
本部積立金			
90周年記念事業積立金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	1,500,000	平成36年用 ③ - 3
設備拡充資金積立金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	250,000	③ - 4
名簿費引当金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	0	
退職給付引当金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	834,000	③ - 5



支部積立金				
一宮支部60周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	280,000	平成36年用 ⑥-2	
西三河支部50周年記念事業積立金	瀬戸信用金庫	0	平成29年用⑧-2	
北勢支部40周年記念事業積立金	百五銀行東員支店	60,000	平成38年用 ⑵	
	特定資産合計	72,005,400		
③その他の固定資産（運用財産）				
(1) 備 品	パソコン	1	本部 公益目的保有財産	
	プロジェクター	1	本部 公益目的保有財産	
	印章	100,000	本部 公益目的保有財産	
	パソコン	50,085	本部 公益目的保有財産	
	マークシート読取機	1,265,544	本部 公益目的保有財産	
(2) そ の 他	電話加入権	171,533	本部 公益目的保有財産	
	保証金	2,952,320	本部 公益目的保有財産 株式会社桑山	
	その他の固定資産合計	4,539,484		
	固定資産合計	106,544,884		
	資 産 合 計	116,778,283	①	
3. 負債	預り金	107,414	1～3月分源泉所得税	
		12,400	3月分市県民税	
		110,231	2、3月分社会保険料	
	預り金合計	230,045		
	前受金	172,000	半田支部 東三河支部	
	未払金	388,992	中日新聞他	
	負債合計	791,037		

貸 借 対 照 表

平成30年3月31日現在

科 目	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
I 資産の部	円	円	円	
1. 流 動 資 産				
① 現 金 預 金				
現 普 通 預 金	2,189,946	1,789,565	400,381	
郵 便 振 替 預 金	3,779,942	2,634,481	1,145,461	
定 期 預 金	927,511	474,447	453,064	
現 金 預 金 合 計	1,200,000	0	1,200,000	
② 前 払 費 用	8,097,399	4,898,493	3,198,906	
前 過 払 金	0	0	0	
前 仮 払 金	0	0	0	
前 払 金 合 計	0	0	0	
③ 預 け 金				
源 泉 税	0	0	0	
市 県 民 税	0	0	0	
社 会 保 険 料	0	0	0	
預 け 金 合 計	0	0	0	
④ 未 収 金				
未 収 会 費	2,136,000	1,645,000	491,000	
流 動 資 産 合 計	10,233,399	6,543,493	3,689,906	
2. 固 定 資 産				
① 基 本 財 産				
定期預金 公益目的保有財産	30,000,000	30,000,000	0	
② 特 定 資 産				
定期預金 公益目的保有財産	48,948,000	48,948,000	0	
20年国債 公益目的保有財産	20,133,400	20,133,400	0	
本 部 積 立 金	2,584,000	2,490,000	94,000	
支 部 積 立 金	340,000	1,640,125	△ 1,300,125	
特 定 資 産 合 計	72,005,400	73,211,525	△ 1,206,125	
③ そ の 他 の 固 定 資 産				
備 品 公 益 目 的 保 有 財 産	1,415,631	2,004,258	△ 588,627	
電 話 加 入 権 公 益 目 的 保 有 財 産	171,533	171,533	0	
保 証 金 公 益 目 的 保 有 財 産	2,952,320	2,952,320	0	桑山ビル分
そ の 他 の 固 定 資 産 合 計	4,539,484	5,128,111	△ 588,627	
固 定 資 産 合 計	106,544,884	108,339,636	△ 1,794,752	
資 産 合 計	116,778,283	114,883,129	1,895,154	
II 負債の部				
1. 流 動 負 債				
預 り 金	230,045	235,219	△ 5,174	源泉税、社会保険料ほか
前 受 金	172,000	50,000	122,000	半田支部受取会費、東三河支部受取会費
未 払 金	388,992	0	388,992	中日新聞他
流 動 負 債 合 計	791,037	285,219	505,818	
2. 固 定 負 債				
固 定 負 債 合 計	0	0	0	
負 債 合 計	791,037	285,219	505,818	
III 正味財産の部				
1. 一 般 正 味 財 産				
正 味 財 産 合 計	115,987,246	114,597,910	1,389,336	
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	116,778,283	114,883,129	1,895,154	②
				①

正味財産増減計算書

自 平成29年 4 月 1 日  
至 平成30年 3 月31日

科 目	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
	円	円	円	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
1 基本財産受取利息	73,500	73,701	△ 201	
② 特定資産運用利益				
1 特定資産受取利息	249,009	249,882	△ 873	
③ 受取会費				
1 理事監事受取会費	448,000	0	448,000	
2 評議員受取会費	14,280,000	13,189,000	1,091,000	
3 正会員受取会費	19,072,000	16,947,000	2,125,000	
4 準会員受取会費	2,095,000	2,190,000	△ 95,000	
5 協賛会員受取会費	1,100,000	1,075,000	25,000	
会費収入計	36,995,000	33,401,000	3,594,000	
④ 未収会費発生額				
1 未収会費	1,220,000	1,129,000	91,000	
⑤ 事業収益				
1 寿書展参加料	724,000	890,000	△ 166,000	
2 支部展参加料	6,914,000	6,077,000	837,000	
3 支部学生展参加料	5,539,215	5,667,050	△ 127,835	
4 支部選抜展参加料	345,000	360,000	△ 15,000	
5 支部研修会参加料	3,157,400	3,025,500	131,900	
6 支部講習会参加料	92,000	187,000	△ 95,000	
7 書道教育者推薦教室看板料	200,000	175,000	25,000	
8 塾総合保険料	229,760	242,240	△ 12,480	
9 会員交流参加料	400,000	292,000	108,000	
10 公開講座参加料	196,000	246,000	△ 50,000	
11 書道教育研修参加料	66,000	9,000	57,000	
12 80周年記念事業収入	0	0	0	
13 中日日展展収収入	46,659,900	47,859,800	△ 1,199,900	
14 中日書きぞめ展収収入	5,740,380	5,808,940	△ 68,560	
15 愛の募金収収入	4,353,000	4,314,001	38,999	
16 本部祝賀会収収入	16,430,000	16,136,000	294,000	
17 支部祝賀会収収入	2,458,000	2,055,500	402,500	
事業収益計	93,504,655	93,345,031	159,624	
⑥ 受取寄付金				
1 受取寄付金	0	50,000	△ 50,000	
⑦ 雑収				
1 普通預金受取利息	40	92	△ 52	
2 会員名簿広告料収入	960,000	0	960,000	
3 宛名ラベル発行手数料収入	260,700	310,400	△ 49,700	
4 負担金収収入	100,000	97,000	3,000	
5 雑収収入	4,500	6,000	△ 1,500	
雑収益計	1,325,240	413,492	911,748	
経常収益計	133,367,404	128,662,106	4,705,298	
(2) 経常費用				
① 経常費用				
1 理事監事報酬	1,095,734	1,145,118	△ 49,384	
2 名誉会長報酬	214,296	213,599	697	
3 名誉会長代行報酬	64,079	33,132	30,947	
4 名誉副会長報酬	31,674	61,890	△ 30,216	
5 学術顧問報酬	331,320	371,978	△ 40,658	
6 企画委員を兼務する評議員報酬	658,495	954,032	△ 295,537	
7 従業員給料手当	4,784,938	4,814,135	△ 29,197	
8 退職金	0	0	0	
9 臨時雇賃金	1,151,218	1,767,371	△ 616,153	
10 福利厚生費	40,501	131,911	△ 91,410	
11 報償謝金	2,632,991	2,610,828	22,163	
12 報償奨励金	7,704,422	7,095,294	609,128	
13 報償交際費	937,029	921,681	15,348	
14 旅費交通費	12,828,260	13,635,049	△ 806,789	
15 食糧費	8,828,336	8,823,634	4,702	
16 消耗品費	1,268,719	1,432,450	△ 163,731	
17 印刷製本費	19,732,677	16,432,779	3,299,898	
18 光熱水費	305,502	362,539	△ 57,037	
19 通信運搬費	6,622,331	6,366,164	256,167	
20 手数料	677,259	744,773	△ 67,514	
21 事務所用賃料	7,771,980	7,801,980	△ 30,000	
22 使用料	8,006,209	7,740,101	266,108	
23 消耗什器備品費	38,966	0	38,966	



24	租 税 公 課	23,700	23,700	0
25	負 担 金	794,400	925,750	△ 131,350
26	委 託 料	5,469,453	5,988,410	△ 518,957
27	寄 託 費	3,900,000	3,850,000	50,000
28	補 助 成	358,000	67,000	291,000
29	法 定 福 利	758,828	833,897	△ 75,069
30	会 員 交 流 費	501,730	501,990	△ 260
31	対 外 広 報 費	7,838,200	7,838,200	0
32	会 議 費	4,631,067	2,871,509	1,759,558
33	保 険 料	271,610	273,245	△ 1,635
34	新 聞 図 書 費	37,032	43,032	△ 6,000
35	表 装 保 管 料	1,956,500	2,300,562	△ 344,062
36	本 部 講 演 会 祝 賀 会 費	16,363,081	15,442,810	920,271
37	支 部 展 覧 会 講 演 会 費	2,588,904	2,128,428	460,476
38	雑 支 出	0	0	0
39	什 器 備 品 減 価 償 却 費	588,627	588,627	0
経	常 費 用 計	131,808,068	127,137,598	4,670,470
②	未 収 会 費 貸 倒 額			
1	未 収 会 費 貸 倒 額	170,000	1,983,000	△ 1,813,000
経	常 費 用 計	131,978,068	129,120,598	2,857,470
当	期 経 常 増 減 額	1,389,336	-458,492	1,847,828
2.	経 常 外 増 減 の 部			
(1)	経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2)	経 常 外 費 用 計	0	0	0
当	期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当	期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	1,389,336	-458,492	1,847,828
一	般 正 味 財 産 期 首 残 高	114,597,910	115,056,402	△ 458,492
一	般 正 味 財 産 期 末 残 高	115,987,246	114,597,910	1,389,336
II	指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当	期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指	定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指	定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III	正 味 財 産 期 末 残 高	115,987,246	114,597,910	1,389,336 ㊦

正味財産増減計算書

(損益計算ベースかつ事業別に区分したもの)  
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで  
公益社団法人 中部日本書道会

(単位 円)

科目	公益目的事業会計		収益事業等会計	法人会計	合計	備考
	公1	公2	他1			
I 一般正味財産増減の部						
(1) 経常収益						
① 基本財産運用収入						
基本財産運用収入	73,500	0	0	0	73,500	
② 特定資産運用収入						
特定資産運用収入	249,009	0	0	0	249,009	
③ 会費収入						
理事監事会費収入	224,000	0	44,800	179,200	448,000	
評議員等会費収入	7,140,000		1,428,000	5,712,000	14,280,000	
正会員会費収入	9,536,000	0	1,907,200	7,628,800	19,072,000	
準会員会費収入	1,047,500	0	209,500	838,000	2,095,000	
協賛会員会費収入	550,000	0	110,000	440,000	1,100,000	
④ 未収会費						
未収会費	610,000	0	122,000	488,000	1,220,000	
⑤ 事業収益						
寿書展収入	0	0	724,000	0	724,000	
支部展収入	0	0	6,914,000	0	6,914,000	
支部学生展収入	5,539,215	0	0	0	5,539,215	
支部選抜展収入	0	0	345,000	0	345,000	
支部研修会収入	0	0	3,157,400	0	3,157,400	
支部講演会収入	0	0	92,000	0	92,000	
書道教育者推薦教室看板料	0	0	200,000	0	200,000	
塾総合保険料	0	0	229,760	0	229,760	
会員交流参加料	0	0	400,000	0	400,000	
公開講座参加料	196,000	0	0	0	196,000	
書道教育研修参加料	0	0	66,000	0	66,000	

周年記念事業収入	0	0	0	0	0	
中日展収入	46,659,900	0	0	0	46,659,900	
中日書きぞめ展収入	5,740,380	0	0	0	5,740,380	
愛の募金収入	0	4,353,000	0	0	4,353,000	
本部祝賀会収入	0	0	16,430,000	0	16,430,000	
支部祝賀会収入	0	0	2,458,000	0	2,458,000	
⑥ 寄付金収入						
寄付金収入	0	0	0	0	0	FAQ VI -1-①
⑦ 雑収入						
普通預金受取利息	0	0	0	40	40	
会員名簿広告料収入	0	0	0	960,000	960,000	
宛名ラベル発行手数料収入	0	0	0	260,700	260,700	
負担金収入	100,000	0	0	0	100,000	一宮芸術祭交付金 FAQ VI -1-①
雑収入	0	0	0	4,500	4,500	
経常収益計	77,665,504	4,353,000	34,837,660	16,511,240	133,367,404	
(2) 経常費用						
理事監事報酬	0	0	0	1,095,734	1,095,734	
名誉会長報酬	0	0	0	214,296	214,296	
名誉会長代行報酬	0	0	0	64,079	64,079	
名誉副会長報酬	0	0	0	31,674	31,674	
学術顧問報酬	0	0	0	331,320	331,320	
企画委員を兼務する評議員報酬	526,797	0	65,849	65,849	658,495	
従業員給料手当	3,827,952	0	478,493	478,493	4,784,938	職員給与・賞与
退職給付	0	0	0	0	0	
臨時雇賃金	1,036,097	0	115,121	0	1,151,218	中日展・寿展
福利厚生費	32,401	0	4,050	4,050	40,501	
報償謝金	2,106,393	0	263,299	263,299	2,632,991	各種謝礼 / 税理士・司法書士等
報償奨励	6,933,980	0	770,442	0	7,704,422	賞品代・記念品代 / 支部賞品代・記念品代
報償交際	0	0	468,515	468,514	937,029	支部事業交際費 / 慶弔等
旅費交通費	11,545,434	0	1,282,826	0	12,828,260	作業時交通費等
食糧費	7,945,503	0	882,833	0	8,828,336	作業時交通費等
消耗品費	1,014,977	0	126,871	126,871	1,268,719	
印刷製本費	8,732,677	500,000	5,800,000	4,700,000	19,732,677	会報その他
光熱水費	244,402	0	30,550	30,550	305,502	本部事務所電気、冷暖房
通信運搬費	5,297,865	0	662,233	662,233	6,622,331	電話、郵送料等
手数料	541,809	0	67,725	67,725	677,259	振込料
事務所賃料	6,217,584	0	777,198	777,198	7,771,980	本部事務所
使用料	6,404,969	0	800,620	800,620	8,006,209	会場使用料等 / 会議室
消耗什器備品費	31,174	0	3,896	3,896	38,966	
租税公課	0	0	0	23,700	23,700	法人税等
負担金	0	0	0	794,400	794,400	支部事業支払会費 / 諸会費
委託料	4,375,563	0	546,945	546,945	5,469,453	看板作成等 / 総会等看板
寄託費	0	3,900,000	0	0	3,900,000	愛の募金による寄託 ほか
補助助成	0	0	358,000	0	358,000	外国研修補助
対外広報費	6,270,560	0	783,820	783,820	7,838,200	中日新聞ほか掲載料
会議費	3,704,855	0	463,106	463,106	4,631,067	
保険料	0	0	0	271,610	271,610	
新聞図書費	0	0	0	37,032	37,032	
表装保管料	978,250	0	978,250	0	1,956,500	
法定福利	607,064	0	75,882	75,882	758,828	職員社会保険、雇用保険
会員交流費	0	0	501,730	0	501,730	
本部講演会祝賀会費	0	0	16,363,081	0	16,363,081	
支部展覧会講演会費	0	0	2,588,904	0	2,588,904	
什器備品減価償却費	470,903	0	58,862	58,862	588,627	備品
雑支出	0	0	0	0	0	
未収会費貸倒額	85,000		17,000	68,000	170,000	
経常費用計	78,932,209	4,400,000	35,336,101	13,309,758	131,978,068	
当期経常増減額	△ 1,266,705	△ 47,000	△ 498,441	3,201,482	1,389,336	
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 1,266,705	△ 47,000	△ 498,441	3,201,482	1,389,336	
一般正味財産期首残高					114,597,910	平成29年 3 月 31 日残高
一般正味財産期末残高					115,987,246	
II 指定正味財産増減の部						
一般正味財産への振替額					0	
当期指定正味財産増減額					0	
指定正味財産期首残高					0	
指定正味財産期末残高					0	
III 正味財産期末残高					115,987,246	



財務諸表に対する注記

法人名：公益社団法人 中部日本書道会  
事業名：事業全体

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。

有形固定資産（建物を除く） 定額法

(2) 引当金の計上基準

・職員退職給付引当金

職員に対する退職給付金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込経理方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	30,000,000	0	0	30,000,000
小 計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
定期預金	48,948,000	0	0	48,948,000
20年国債	20,133,400	0	0	20,133,400
本部積立金	2,490,000	594,000	500,000	2,584,000
支部積立金	1,640,125	100,000	1,400,125	340,000
小 計	73,211,525	694,000	1,900,125	72,005,400
合 計	103,211,525	694,000	1,900,125	102,005,400

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本金	30,000,000	(0)	(30,000,000)	(0)
小計	30,000,000	(0)	(30,000,000)	(0)
特定資産				
定期預金	48,948,000	(0)	(48,948,000)	(0)
20年国債	20,133,400	(0)	(20,133,400)	(0)
本部積立金	2,584,000	(0)	(2,584,000)	(0)
支部積立金	340,000	(0)	(340,000)	(0)
小 計	72,005,400	(0)	(72,005,400)	(0)
合 計	102,005,400	(0)	(102,005,400)	(0)

4 減価償却資産の内訳

備 品	取得年月	法定耐用年数	取得価額	前期末価額	当期償却額	当期末価額
プロジェクター	H20.10	5	119,700	1	0	1
パソコン	H21.01	4	111,025	1	0	1
印章	H26.04	5	500,000	200,000	100,000	100,000
パソコン	H27.01	4	267,116	116,864	66,779	50,085
マークシート読取機	H28.04	5	2,109,240	1,687,392	421,848	1,265,544
合 計				2,004,258	588,627	1,415,631

監 査 報 告 書

公益社団法人中部日本書道会  
理事長 関 根 玉 振 殿

私たち監事は、平成29年4月1日より平成30年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告の監査結果

一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の不足無の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成30年5月13日

監 事 佐 野 純 一 (翠 峰) 印  
監 事 伊 藤 義 文 (暁 嶺) 印  
監 事 柘 英 樹 (英 峰) 印

# 平成30年度 第22回 書の魅力 公開講座 (予告)

日時：平成30年12月2日(日) ※寿展最終日 会場：電気文化会館 イベントホール (5階)

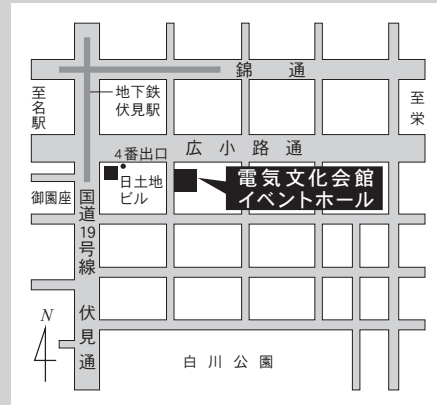
日程：受付 12:30  
開会あいさつ 13:00 (理事長)

第1講座 13:15~14:15  
講師：常任顧問 伊藤昌石先生  
演題：三体千字文から学ぶ

休憩

第2講座 14:35~15:35  
講師：理事 鈴木立齊先生  
演題：私と呉昌碩

閉会のことば 15:35 (研究部)



## 第二十七回 寿展案内 (予告)

会期 二〇一八年十一月二十七日(火) ~ 十二月二日(日)

会場 電気文化会館 (五階 東・西ギャラリー)

## 社中展・個展のご案内

### ○第五十四回 麗筆会展

代表 武山翠屋  
会期 九月二十一日(金)~二十三日(日)  
会場 一宮スポーツ文化センター二階

### ○清晨会 PART II 書展 併設 学生選抜展

代表 吉田清城  
会期 十一月六日(火)~十一日(日)  
会場 名古屋市民ギャラリー栄 八階  
第九・十展示室

本会員による書展のご案内を、会報及びHPにて掲載させていただきます。会報掲載には、展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内ハガキをお送り下さい。次号掲載は、十一月下旬~二月中旬開催の展覧会となります。お申し込みは、九月末日までに本部までお願いします。

編集部

## 新入会員紹介

(四・五・六・七月分)

- 一宮支部 市川 翠華
- 佐野 陽華
- 横山 香華
- 半田支部 福藤 雅苑
- 前田 泰翠
- 村瀬 鶴翠
- 室重 隆翠
- 西三支部 久保園 泰仙
- 鈴木 芳華
- 長谷川 華風
- 東三支部 加藤 孝子
- 加藤由美子
- 松崎理恵子
- 岐阜支部 田口 昂麗
- 松本 萌伶

心より哀悼の意を表しご報告申し上げます。(厚生部)

○4月3日 理事 波切童州氏 ご母堂 清子様 享年90才	○5月26日 正会員 尾関喜承氏 享年69才
○4月5日 評議員 斉藤千秋氏 享年89才	○6月8日 評議員 鬼頭城山氏 享年76才
○4月28日 評議員 加藤蘭芳氏 享年74才	○6月11日 正会員 筒井昭子氏 享年86才
○5月11日 評議員 近藤慶香氏 享年89才	○7月7日 顧問 鷺野看雲氏 享年87才
○5月22日 顧問 佐藤慶雲氏 享年99才	○3月25日 正会員 加藤恵月氏 享年88才

## あとがき

中日会報第一八九号をお届けいたします。今年の夏も猛暑が続いておりますが、会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。サッカーワールドカップでは、日本代表が、久方ぶりに決勝トーナメントへ進出し、期待と喜びを持たせてくれましたが、今一步の所で新たな道へと歩みを進められませんでした。本号では、第六十八回中日書道展の特集として受賞作品や展覧会の結果などをお届けさせて頂いております。皆様には、今一度上位賞の作品や、先生方の講評等をご覧いただき、次へのステップにお役立て頂ければと思います。私共も、本号発行で丸一年が過ぎ、手探りの中で四回の会報発行に携わってまいりましたが、誤字や表記間違い等もあり、校正作業の難しさを痛感した一年でした。これらの経験に基づき、編集部一同、気を引き締め直し、会報発行を行ってまいりますので宜しくお願い致します。(編集部)

七月の西日本豪雨で被災されました方々には、心よりお見舞い申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>  
メールアドレス [info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)